

# 講義要綱

授業科目名	ミクロ経済学Ⅰ（2単位） MicroeconomicsⅠ	開講時限	秋学期 月曜日 1 時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1 年
担当教員名	田村 彌（大学院経済学研究科） Wataru TAMURA	office hour	月曜 12:00-13:00 (NUCT 上で質問対応します)
<b>授業の目的</b> 現代の経済社会における諸問題を考えるために必要な基礎知識および分析能力を育むとともに、市場メカニズムと経済学の基本原理についての理解を深めることを目的とする。 This course provides students with the basic knowledge and skills required to understand and analyze problems in modern economic societies, promoting understanding of market mechanisms and basic principles of economics.			
<b>到達目標</b> 競争市場における需要と供給の考え方を身に付け、ミクロ経済学的な観点から現実の市場について分析できることを到達目標とする。 Students will be able to understand demand and supply in competitive markets and analyze real markets from microeconomic perspectives.			

授業の構成

1	市場のデータを見てみよう
2	経済学の原理と方法
3	最適化と限界原理の考え方
4	需要と供給
5	消費者とインセンティブ
6	需要曲線
7	中間まとめと評価
8	生産者とインセンティブ
9	供給曲線
10	完全競争市場の供給
11	完全競争と見えざる手
12	課税や規制の効果
13	生産要素市場
14	応用ミクロの紹介
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 宿題（30%）・レポート（30%）、中間テスト(20%)、期末試験（20%）で評価する。それぞれについて、以下の合格基準を満たすことを合格要件とする。 各項目の合格基準 ・宿題：締め切り前の提出が 80%以上。 ・レポート：ミクロ経済学の基礎的な考え方を応用して現実の市場について分析できること。 ・中間試験・定期試験：基本的な概念を正しく理解し、論理的な議論や適切な例示ができること。 学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げ届を提出する必要がある。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の該当ページを読み、疑問を用意する。ほぼ毎週、宿題を課すのできちんと取り組む。	

<b>教科書・参考書</b> 授業はアセモグル／レイブソン／リスト・ミクロ経済学 東洋経済新報社（2020 年春に出版見込み）に沿って進める。英語に抵抗がない学生には英語版の Acemoglu, Laibson, List, Microeconomics（もしくは Economics), Second Edition を勧める。 より入門向けの参考書として ・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』 有斐閣ストゥディア 2013 年 数学に抵抗がない学生や資格試験を考えている学生向けの参考書として ・レヴィット・グールズビー・サイヴァーソン『レヴィット・ミクロ経済学基礎編』 東洋経済新報社 2018 年 ・神取道宏『ミクロ経済学の力』 日本評論社 2014 年 （講義資料はすべて NUCT 等を通じてオンライン配布するため、教科書を購入する場合も Kindle などの電子書籍のほうが便利です）
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 「統計解析」「経済数学Ⅰ・Ⅱ」の履修済みであることが望ましいが、未履修でも受講可能。 また「マクロ経済学Ⅰ」および「計量経済学Ⅰ」を同時に履修することを強く勧める。

授業科目名	ミクロ経済学Ⅱ（２単位） Microeconomics II	開講時限	春学期 木曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2 年
担当教員名	中村 さやか（大学院経済学研究科） Sayaka NAKAMURA	office hour	講義終了後。質問は講義中も随時受け付ける。電子メールでの質問も可。
<b>授業の目的</b> ミクロ経済学Ⅰで扱われた内容をもとに、不確実性の下での経済主体の行動、ゲーム理論、独占市場や寡占市場における企業行動と資源配分、外部性、公共財等のミクロ経済学の重要なトピックについて学ぶ。経済学の基礎知識を確実に習得し、現代の経済社会が直面する諸課題へミクロ経済学が示す解決策を学ぶことを目的とする。 Building on materials covered in Microeconomics I, students will learn important topics in microeconomics, including behavior of economic entities under uncertainty, game theory, firm behavior and resource allocation under monopoly and oligopoly, externalities, and public goods. Students learn the basics of economics and microeconomic solutions to the problems faced by contemporary economy and society.			
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"><li>不確実性や外部性の下での経済主体や独占市場や寡占市場の企業について、最適化行動を定式化し、最適解を導き、結果として生じる資源配分や余剰を求めることができる。</li><li>ゲーム理論の基本概念を理解し、単純なゲームのナッシュ均衡を求めることができる。</li></ul>			

授業の構成

1	不確実性 1：不確実性の下での予算制約・選好
2	不確実性 2：不確実性の下での選択と保険・投資
3	独占 1：独占企業の行動・独占の非効率性・独占への規制
4	独占 2：自然独占・価格差別
5	ゲーム理論 1：ナッシュ均衡
6	ゲーム理論 2：逐次手番ゲームと混合戦略
7	ゲーム理論 3：ゲーム理論のさまざまな応用
8	テスト 1
9	テスト 1 の復習
10	寡占 1：クールノー・ゲームと談合
11	寡占 2：シュタッケルベルク・ゲームとベルトラン・ゲーム
12	外部性 1：外部性の非効率性・コースの定理
13	外部性 2：外部性の内部化・共有地の悲劇
14	公共財
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> テスト 1（30％）と期末試験（70％）により評価する。それぞれについて C 評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に講義資料と教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書</b> ハル ヴェリアン、『入門ミクロ経済学：原著第 9 版』勁草書房, 2015 年. （原著：Varian HR, Intermediate Microeconomics: A Modern Approach, Ninth International Student Edition, W. W. Norton & Company, 2014）	
<b>参考書</b> 神取 道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社, 2014 年.	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ミクロ経済学Ⅰと経済数学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。未履修でも受講可能であるが、これらの講義内容の理解を前提とする。	

授業科目名	マクロ経済学Ⅰ（２単位） Macroeconomics I	開講時限	秋学期 火曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1 年
担当教員名	齊藤 誠（大学院経済学研究科） Makoto SAITO	office hour	火曜日 4 時限
<b>授業の目的</b> 本講義は、マクロ経済学Ⅱを連続して受講することによって、マクロ経済学の基礎的な知識を身につけ、現実のマクロ経済現象を解釈する能力を養うことを目的としている。特に、マクロ経済学Ⅰでは、国民経済計算をはじめとしたマクロ経済統計の解釈とともに、閉鎖経済について、短期モデル、中期モデル、長期モデル（経済成長）のトピックスがカバーされる。 This course enables students to understand basic macroeconomic models, and to apply them to actual macroeconomic phenomena. It covers macroeconomic data including the system of national accounts, and closed-economy models in terms of the short-run, the middle-run, and the long-run (economic growth).			
<b>到達目標</b> 本コースの受講者は、いわゆる 200 番マクロといわれるグローバル・スタンダードのマクロ経済学を学ぶことができるとともに、その知識を日本経済に応用するツールを身につけることができる。			

授業の構成

1	国民経済計算の考え方・使い方（その 1）
2	——（その 2）
3	資金循環表、国際収支統計、労働統計
4	マクロ経済現象：景気循環と経済成長
5	閉鎖経済の短期モデル（その 1）
6	——（その 2）
7	——（その 3）
8	閉鎖経済の中期モデル（その 1）
9	——（その 2）
10	——（その 3）
11	閉鎖経済の長期モデル（成長モデル）（その 1）
12	——（その 2）
13	——（その 3）
14	マクロ経済学から見た日本経済
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 本コースは、毎回課す宿題の提出（30％）と期末試験（70％）で評価をし、C－評点以上を合格要件とする。経済学部生としてふさわしいマクロ経済学の知識が身につけられているかどうかを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の講義について、教科書の指定箇所を予め読んでおくとともに、宿題を含めた復習に取り組む。	
<b>教科書・参考書</b> 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『NLAS 新版 マクロ経済学』（有斐閣） なお、本教科書は、2021 年度春学期のマクロ経済学Ⅱでも引き続き活用する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 本講義は、経済学の前提知識を必要としていないが、数学について簡単な微分積分の知識を前提としている。	

授業科目名	マクロ経済学Ⅱ（2単位） Macroeconomics II	開 講 時 限	春学期 月曜日 2 時限
科 目 区 分	専門系科目 専門基礎科目	配 当 年 次	2 年
担当教員名	清水 克俊（大学院経済学研究科） Katsutoshi SIMIZU	office hour	講義後 または 月曜 3 時限（事前メール）
<b>授業の目的</b> 日本経済や世界経済の観点から、マクロ経済のメカニズムについて基礎的知識を獲得し、マクロ経済学の理解を深めることを目的とする。 This course introduces the basic knowledge about the mechanisms of macroeconomy and help students deepen the understandings of Macroeconomics.			
<b>到達目標</b> 本講義の到達目標は (1) マクロ経済学の基本的な原理を習得する (2) 現実の日本経済の動向について簡単な理解と応用ができるようになる である。 The goals of this course are (1)to acquire the basic principles of Macroeconomics, (2)to understand trends of Japanese economy.			

授業の構成

1	マクロ経済学の諸問題：概観	Overview: Macroeconomics
2	日本経済の消費・貯蓄	Consumptions and Savings
3	日本経済の投資	Investments
4	日本経済の総供給と総需要	Aggregate supply and demand
5	日本経済のインフレ率	Inflation rates
6	日本経済の景気循環	Business cycles
7	日本の金融政策	Monetary policy
8	日本経済と為替レート	Exchange rates
9	世界経済と経済成長	Economic growth 1
10	経済成長の諸問題	Economic growth 2
11	国際マクロ経済の諸問題	Open Macroeconomics
12	財政・年金問題と日本経済	Public Finance
13	日本経済の労働問題	Labor
14	マクロ経済分析のフレームワーク	Theoretical framework
15	まとめ 日本のマクロ経済分析の課題	The future of Japanese economy
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニテスト（約 30%）および最終試験（またはレポート）の点数の加重平均により、総合的に評価する。 上記の目的、到達目標、授業の構成の内容について、基本的な概念や用語を理解し、それらを用いて論述できることを加点の基準とする。履修取り下げ制度を採用する。		
<b>授業時間外学習の指示</b> ①スライドを読み、②練習問題に取り組む、③ミニテストの内容を再度確認する、④web 上の参考資料をダウンロードして読む。		
<b>教科書・参考書</b> 教科書：授業スライドをダウンロードすること。 参考書：マクロ経済学 齊藤誠他（有斐閣）、マクロ経済学 二神孝一・堀敬一（有斐閣）		
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> マクロ経済学Ⅰとミクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。		

授業科目名	計量経済Ⅰ（2単位） Econometrics I	開 講 時 限	秋学期 月曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 専門基礎科目	配 当 年 次	1 年
担当教員名	加藤 尚史（大学院環境学研究科） Takafumi KATO	office hour	授業終了後
<b>授業の目的</b> 現実世界において社会が直面する経済問題を理解して解決するために不可欠とされる計量経済学の基礎的な知識を修得することを目的とする。 This is a first course designed for undergraduate students to obtain a basis knowledge of econometrics, which is fundamental in understanding and solving the economic problems that our society faces in the real world.			
<b>到達目標</b> 簡単な経済問題について数理的なモデルを作成して統計的な推測を行ったうえで政策的なインプリケーションを探ることができるようになることを目標とする。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	確率変数(1)
3	確率変数(2)
4	確率分布(1)
5	確率分布(2)
6	統計的推測(1)
7	統計的推測(2)
8	統計的推測(3)
9	数理的モデル(1)
10	数理的モデル(2)
11	最小 2 乗法(1)
12	最小 2 乗法(2)
13	最小 2 乗法(3)
14	最小 2 乗法(4)
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 定期試験と出欠席に基づいて総合的に評価する。計量経済学の基礎的な知識を修得していることを基準とする。履修取り下げ制度は採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 授業内容を理解することが容易でない場合は補習することを期待する。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書は指定しない。参考書は必要に応じて指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は設定しない。可能な限り出席することを期待する。	

授業科目名	計量経済Ⅱ（2単位） Econometrics II	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	園田 正（大学院経済学研究科） Tadashi SONODA	office hour	月曜日 1時限 （研究室で質問に応じる）
<b>授業の目的</b> 本講義では、より妥当な仮定の下で統計的推測や仮説検定を行う方法を学び、計量経済Ⅰの学習事項を学んだ後に計量経済学の進んだ方法を理解することを目的とする。 To understand statistical inferences and hypothesis testing methods under more realistic assumptions, this course aims to introduce further topics in econometrics after learning Econometrics I.			
<b>到達目標</b> ・計量経済Ⅰで学んだ重回帰モデルの仮定の強さを説明できるようになる。 ・計量経済Ⅰで学んだ重回帰モデルの仮定を検定し、棄却された場合には適切に対処できるようになる。			

授業の構成

1	計量経済Ⅰの復習①
2	計量経済Ⅰの復習②
3	不均一分散①
4	不均一分散②
5	計量経済分析の実践
6	時系列データの分析①
7	時系列データの分析②
8	時系列データの分析③
9	パネルデータ分析①
10	パネルデータ分析②
11	操作変数法①
12	操作変数法②
13	因果関係とその大きさの推定①
14	因果関係とその大きさの推定②
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の素点に基づいて行う。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
<b>教科書・参考書</b> 必要に応じて授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 計量経済Ⅰの単位を修得していることが望ましい。	

授業科目名	政治経済学Ⅰ（2単位） Political Economy I	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	藤田 真哉（大学院経済学研究科） Shinya FUJITA	office hour	金曜日 12時から 13時まで 研究室での面談
<b>授業の目的</b> 本授業では、古典派政治経済学の価格理論と分配理論を概説する。すなわち、諸商品の価格がどのように決まり、所得が労働者と使用者との間でどのように分配されるかという経済学上の根本問題について、リカードやマルクスから新リカード派に至る政治経済学の視点に基づき、その答えに辿りつく基礎的な分析力を育成することを目標としている。 In this lecture, I explain the theories of price and distribution from the viewpoint of classical political economy including D. Ricard, K. Marx, and neo-Ricardian.			
<b>到達目標</b> この授業を通じて、19世紀から現代に至る経済学者が資本主義経済をどう捉えてきたかという学説史的知識を獲得できるとともに、複合的・多様な視点から現代経済を理解する能力を身に付けることができる。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	経済学の基礎用語
3	政治経済学における人間観と社会観Ⅰ
4	政治経済学における人間観と社会観Ⅱ
5	スミスとリカードの価値論
6	マルクスの分配論Ⅰ
7	マルクスの分配論Ⅱ
8	マルクスの分配論Ⅲ
9	小括
10	新リカード派の価格理論Ⅰ
11	新リカード派の価格理論Ⅱ
12	新リカード派の価格理論Ⅲ
13	ケンブリッジ資本論争
14	企業と労使関係
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（100％）で評価する。C・評定以上を合格要件とする。 古典派政治経済学の価格・分配理論について、授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前にレジュメを使って予習すること。	
<b>教科書・参考書</b> 毎回の授業前に NUCT を通じてレジュメを配布する。教科書・参考書については、必要に応じて授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は要さない。	

授業科目名	政治経済学Ⅱ（２単位） Political EconomyⅡ	開講時限	春学期 月曜日４時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	２年
担当教員名	藤田 真哉（大学院経済学研究科） Shinya FUJITA	office hour	火曜日 12 時から 13 時まで 研究室での面談
<b>授業の目的</b> 本授業では、ケインズ派やマルクス派の経済成長の理論を概説する。また景気循環論や貨幣・金融論など経済成長に関連する周辺のトピックもあわせて紹介する。本授業は、これらの学習を通じて資本主義の動態についての理解を深めることを目的としている。 In this lecture, I explain the theories of growth and cycle from the viewpoint of Keynesian and Marxian economics.			
<b>到達目標</b> この授業を通じて、資本主義経済の動態のメカニズムをケインズ派およびマルクス派の立場から理解・説明する能力を身に付けることができる。			

#### 授業の構成

１	ガイダンス
２	政治経済学とは何か（政治経済学Ⅰの復習）
３	経済成長論Ⅰ
４	経済成長論Ⅱ
５	経済成長論Ⅲ
６	経済成長論Ⅳ
７	経済成長論Ⅴ
８	小括
９	景気循環論Ⅰ
10	景気循環論Ⅱ
11	物価変動の理論
12	貨幣と金融制度Ⅰ
13	貨幣と金融制度Ⅱ
14	貨幣と金融制度Ⅲ
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（100％）で評価する。C 評定以上を合格要件とする。 古典派政治経済学の成長理論について、授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前にレジュメを使って予習すること。	
<b>教科書・参考書</b> 毎回の授業前に NUCT を通じてレジュメを配布する。教科書・参考書については、必要に応じて授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は要さない。	

授業科目名	一般経済史Ⅰ（２単位） Economic HistoryⅠ	開講時限	秋学期 月曜日３時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	１年
担当教員名	堀内 義隆（三重大学人文学部） Yoshitaka Horiuchi	office hour	質問はメールで受け付ける。
<b>授業の目的</b> この講義では、世界の経済の歴史を学ぶことによって、現代の世界経済が直面する諸課題を、学術的に分析できる基礎的能力を培う。 This course introduces the foundations of world economic history to students taking this course.			
<b>到達目標</b> 古代から現代に至る世界史を経済の動きから理解し、わかりやすい文章で説明できる。			

#### 授業の構成

１	経済史学とは何か
２	農業社会の発展
３	大航海時代
４	産業革命
５	大企業の登場
６	帝国主義の時代
７	大恐慌とその影響
８	戦後国際経済秩序
９	多国籍企業の時代
10	ヨーロッパの経済統合
11	アジアの経済発展
12	貧困国の問題
13	グローバルヒストリー
14	計量経済史と制度の経済史
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験で評価する。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書：河崎信樹・奥和義編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018 年	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 高校の社会科（世界史・政経）の予備知識があることが望ましいが、一般向けの世界史の概説書（新書・文庫）を通読するのでも良い。 その他のことについては、初回の授業時に詳しく説明する。	

授業科目名	一般経済史Ⅱ（2単位） Economic History II	開講時限	春学期 金曜日3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	福澤 直樹（大学院経済学研究科） Naoki FUKUZAWA	office hour	木曜日 9:30～10:30 この時間以外にも質問を受け付ける。メール等で申し込むこと。
<b>授業の目的</b> 現代のさまざまな社会経済問題は、その現象だけを見て理解できるものではない。「経済史」という学問領域の一般的な枠組を学習することを通じて、そうしたさまざまな問題の根源や経緯を歴史的・論理的に捉える素養や視点、方法論を身に付け、それによって現代経済社会を構造的・立体的に認識するための基礎的分析力を育成することがこの講義の目的である。 The various socio-economic issues of today cannot be understood only by looking at that phenomenon. Through studying the general framework of the academic discipline of "economic history", students will acquire the skills, perspectives, and methodologies that historically and logically capture the roots and background of these various problems. The purpose of this lecture is to develop basic analytical skills for structural recognition of the modern economic society.			
<b>到達目標</b> 学生は前近代社会の特徴や生成の必然性を学び、それを通じて現代市場経済社会のあり方をより具体的に認識できるようになる。近代に向けて前近代的共同体社会がどのように解体するかの理解を深めることにより、現代の経済社会においてなお存在する社会的共同性の意味をより明確に意識できるようになる。世界各地の近代工業化（或いは従属化）の特徴を学びつつ、それぞれの社会固有の経済的特徴を、その構造面から理解できるようになる。南北問題・金融危機・格差などが世界的な問題として採り上げられている中、その根源や根本的課題について、アカデミックな認識手法を用いて論理的に議論できるようになる。			

#### 授業の構成

1	経済史における歴史認識のあり方とその意義 前近代と共同体／共同体の解体と近代の胎動
2	市民革命と産業革命／近代化とは 自由主義と市場経済
3	近現代市場経済の諸問題と国家介入―市場のコーディネーションと国家
4	福祉のコーディネーションと社会経済
5	信用システムの生成と展開―信用貨幣の発展・中央銀行の生成と金融政策の形成
6	信用システムの生成と展開―国際通貨制度の発展
7	現下の国際金融システムにおける諸問題（特別講演聴講）
8	19世紀の世界経済の構造 各国の工業化と世界経済
9	周辺地域の分極化と周辺工業化
10	周辺従属地域における低開発構造の定着
11	19世紀末大不況と各国・各地域の反応 世界経済の不均衡と帝国主義
12	第一次大戦後の世界経済と1930年代大不況 ニューディール・ファシズム・社会主義
13	戦後経済体制の確立 高度経済成長と冷戦体制・南北問題 1970年代以降の低成長期の到来
14	冷戦体制の崩壊と新たな世界経済の構造
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 第7回目の特別公演後にレポートを課し、また期末試験を実施する。講義出席他、総合的な学習状況も加味する。なお、履修取り下げ制度は採用しない。評価のウエイトは、期末試験80%、レポート10%、総合的学習状況10%とし、上記の到達目標について一定程度論述できることを合格の基準とする。	

<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回、次回に向けての予習箇所を指示するので、その部分を必ず読んでくること。それを前提として授業を進める。
<b>教科書・参考書</b> 金井雄一 / 中西聡 / 福澤直樹『世界経済の歴史―グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、2010年を教科書とする。またNUCTを用いた教材の配布も行う。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 中学校の社会科レベルの歴史の知識は必要（高校の世界史ほど詳しくなくてよい）。必要に応じて中・高生時代の教科書、資料集、またはそれに準じる市販の書籍を用意することを強く勧める。 This lecture will be held in Japanese.



授業科目名	経営Ⅰ（２単位） ManagementⅠ	開講時限	秋学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	古澤 和行（愛知学院大学経営学部） Kazuyuki Kozawa	office hour	質問は講義時および講義前後に受け付けます
<b>授業の目的</b> 本講義では、はじめて経営学を学ぶ学生を対象とした講義です。この講義を通じ、初歩的な経営学の知識の修得を目的とします。 This course introduces the foundations of management theory to students taking this course.			
<b>到達目標</b> （授業終了時に学生は、）企業と経営管理に関する基本的な経営学用語を理解し、説明できるようになることを目標としています。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	経営学の全体像
3	企業の社会的責任
4	経営資源と経営管理
5	経営戦略の体系
6	事業戦略と全社戦略
7	戦略分析と戦略転換
8	中間テスト
9	組織デザイン
10	組織学習
11	モチベーション
12	リーダーシップ
13	中小企業の経営
14	イノベーションと経営
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 中間テスト（20％）および期末試験（80％）で評価します。 経営学に関する基本的な概念や用語を正しく理解し、説明できることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の当該箇所を読んでおいて下さい。	
<b>教科書・参考書</b> 内藤勲編著『はじめて出会う経営学』中央経済社	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 授業中の私語、遅刻厳禁。毎回出席できることが履修条件になります。	

授業科目名	経営Ⅱ（２単位） ManagementⅡ	開講時限	春学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	川崎 綾子（大学院経済学研究科） Ayako KAWASAKI	office hour	質問は講義前の時間に受け付ける（事前予約）
<b>講義の目的</b> 本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生自身の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。The aim of this course is to enhance your research ability in business administration and leadership by understanding and learning management theories.			
<b>到達目標</b> 学生は経営の理論的な用語を使って、現実の事象を新しい整理軸や統合軸で説明することができる。			

授業内容

1	導入 /単位取得に関する注意事項，出席シートに関する説明
2	経営の目的（1）／顧客価値の提供
3	経営の目的（2）／価値提供のための組織づくり
4	人のマネジメント（1）／モチベーション
5	人のマネジメント（2）／モチベーションとリーダーシップ
6	組織デザインと分業（1） /外部業者の活用
7	組織デザインと分業（2） /アウトソーシングと製品のモジュラー化ー
8	組織デザインと統合 /垂直統合と SPA～
9	様々な取引形態 /取引コストと信頼
10	資源依存理論 /課題に関する説明ー
11	提携の様々な形 /製作委員会とプロデューサー
12	商品開発（1） /プロデューサー，プロダクト・マネジャー
13	商品開発（2） /コンビニのプライベートブランド商品
14	流通 /コンビニエンス・ストア
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準

履修取り下げ制度は採用しない。レポートと期末試験に基づいて評価する。ただし5回以上欠席した者には基本的に単位を認めない（注意：第1回講義と補講の回では出席を取らない）期末試験を受験しない場合は「欠席」となる。理論的な用語の定義を自身の言葉で説明することができ、理論的な用語を使って現実の事象を自身独自の切り口で説明できていることを、合格の基準とする。

授業時間外学習の指示

本講義では NUCT 上に講義資料を掲載するが、講義資料上に毎回、簡単な予習課題を載せておく（講義に関連する用語の定義に関する質問など）

教科書・参考書

教科書は指定しないが、講義資料は先述のように NUCT に掲載するので事前に印刷しておくこと（講義資料は括弧抜きになっており、毎回の講義で解答を示す）。参考書は講義内で紹介する。

履修条件・関連する科目・注意事項

私語について複数回注意を受けたり、毎回の講義で注意を受けたりする者には、単位を認めない場合がある。また、2回の遅刻を、1回の欠席として数える。出席確認の問題に答える時間を除いて、講義中の携帯・スマートフォンの操作は厳禁とする。経営Ⅰを受講済みであることが望ましい。



授業科目名	会計Ⅰ（２単位） AccountingⅠ	開講時限	春１期 金曜日１・２時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	１年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） Akihiro NOGUCHI 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims （基礎的分析力） 会計はビジネスの言語であり、それを学ぶことは企業が直面する課題を分析する上で不可欠です。会計学に関する専門科目、特に財務会計や管理会計を学ぶ上で必要となる基礎知識を習得することが、この講義の目的です。 Accounting is considered as language of business. This course deals with the basics of bookkeeping and accounting.			
到達目標 Course Objectives 業種・職種にかかわらず経営に携わる上で身に付けておくべき商業簿記に関する必須の基本知識が習得でき、簡単な財務諸表の作成ができるようになります。 The goal of this course is to understand accounting cycle, and to be able to prepare basic financial statements.			

#### 授業の構成

１	簿記の目的 What is bookkeeping?
２	仕訳と転記 Journal entry and posting
３	試算表の作成 Preparing trail balance
４	商品売買 Accounting for sales
５	手形 notes
６	有価証券 financial instruments
７	決算仕訳 Adjusting entries and closing entries
８	主要簿・補助簿 Journal, ledger, and other accounting books
９	帳簿組織 Accounting information system
１０	売上原価 Cost for goods sold
１１	減価償却 Depreciation
１２	費用・収益の見越・繰延 Accruals and deferrals
１３	精算表の作成 Preparing worksheet
１４	損益計算書と貸借対照表 Income statement and balance sheet
１５	まとめと評価 Summary and evaluation

成績評価の方法と基準
学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価します（100%）。基礎レベルの商業簿記の計算方法と概念を正しく理解していることを合格の基準とします。授業時間内に随時実施する課題についても成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価します。
授業時間外学習の指示
毎回、講義の進度に合わせて、問題集の記入を進めてください。特に欠席した場合は、NUCT 上のビデオ講義を聴講するようにしてください。
教科書・参考書
教科書『簿記３級テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』『答練問題』 参考書 佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本』日経文庫。
履修条件・関連する科目・注意事項
履修条件は要しません。逆に、この講義で学習する内容は、会計Ⅱ、財務諸表Ⅰ・Ⅱ、さらに財務会計、管理会計など会計学に関連するすべての科目の基礎となりますので、毎回出席し、問題集の記入を行うようにして、知識を確実なものとしてください。簿記は、知識を積み上げてゆくことが不可欠なので、今後の学習に大きな影響を及ぼします。

授業科目名	会計Ⅱ（２単位） AccountingⅡ	開講時限	秋１期 水曜日１・２時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	１年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） Akihiro NOGUCHI 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims （基礎的分析力） 会計はビジネスの言語であり、それを学ぶことは企業が直面する課題を分析する上で不可欠です。会計学に関する専門科目、特に財務会計や管理会計を学ぶ上で必要となる中級レベルの商業簿記を習得することが、この講義の目的です。 Accounting is considered as language of business. This course deals with the intermediate bookkeeping and accounting.			
到達目標 Course Objectives 中級レベルの商業簿記を習得し、会計基準に従って基本的な財務諸表を作成することができるようになります。 The goal of this course is to understand how accounting information are prepared, and to be able to prepare financial statements.			

#### 授業の構成

１	簿記一巡 Accounting cycle
２	無形資産 Intangibles
３	引当金 Provisions
４	資本金計 Accounting for equity
５	負債会計 Accounting for liabilities
６	財務諸表 Financial statements
７	本支店会計 Accounting for branches
８	帳簿組織 Accounting information system
９	収益認識 Revenue recognition
１０	特殊商品売買 Instalment sales etc.
１１	消費税 Accounting for consumption tax
１２	研究開発費 Research and development expense
１３	有価証券 Financial instruments
１４	固定資産 Fix assets
１５	まとめと評価 Summary and evaluation

成績評価の方法と基準
学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価します（100%）。中級レベルの商業簿記の計算方法と概念を正しく理解していることを合格の基準とします。授業時間内に随時実施する課題についても成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価します。
授業時間外学習の指示
毎回、講義の進度に合わせて、問題集の記入を進めてください。特に欠席した場合は、NUCT 上のビデオ講義を聴講するようにしてください。
教科書・参考書
教科書『簿記２級（商業簿記）テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』『答練問題』 参考書 佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本』日経文庫。
履修条件・関連する科目・注意事項
履修条件ではありませんが、会計Ⅰを修得済みであることを前提に講義は進められます。計算問題が多いので電卓が必要です。なお、講義中に重要な連絡をすることがありますので、講義に欠席した場合には、そのような連絡事項について、各自の責任で把握しておいて下さい。

授業科目名	財務諸表Ⅰ（２単位） Financial Statements I	開講時限	春２期 金曜日１・２時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	１年
担当教員名	坂口 順也（大学院経済学研究科） Junya SAKAGUCHI 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	木曜日 14 時 - 15 時（要予約：各 質問に対応） By appointment
<b>授業の目的</b> この講義では、経営学・会計学に必要な考え方を身につけるため、日商簿記検定２級レベルの工業簿記の知識を習得し、公認会計士などの国家試験への足がかりとすることを目的とします。また、日商簿記検定２級の受験準備にもなります。 The purpose of this course is to learn fundamental skills of industrial bookkeeping (i.e., the official business skill test of bookkeeping, 2 <sup>nd</sup> grade), in order to acquire basic understandings for accounting field (e.g., costing and management accounting).			
<b>到達目標</b> 授業終了時に学生は、工業簿記（日商簿記２級レベル）の計算方法と基礎概念を説明できる。			

授業の構成

１	工業簿記と原価計算・原価・工業簿記の勘定体系（個別原価計算）
２	材料と材料費・材料の購入原価の計算と記帳・材料費の計算と記帳
３	労務費・賃金給料の支払額の計算・賃金給料の消費額の計算
４	経費会計・製造間接費会計
５	個別原価計算・個別原価計算における仕損・工企業の財務諸表
６	部門別計算・工場会計の独立
７	工業簿記の勘定体系（総合原価計算）
８	仕掛品の評価・材料の投入方法
９	正常減損・正常仕損・工程別総合原価計算
10	組別総合原価計算・等級別総合原価計算
11	標準原価計算
12	損益分岐点分析・直接原価計算
13	総合演習（１）
14	総合演習（２）
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価します（100%）。工業簿記の計算方法と基礎概念を正しく理解していることを合格の基準とします。履修取り下げ制度を採用しません。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価します。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業後の復習のみならず、授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書『簿記２級（工業簿記）テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は要さない。授業で電卓を使用しますので準備して下さい。	

授業科目名	財務諸表Ⅱ（２単位） Financial Statements II	開講時限	春学期 木曜日３時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	２年
担当教員名	坂口 順也（大学院経済学研究科） Junya SAKAGUCHI	office hour	要予約（各質問に対応） By appointment
<b>授業の目的</b> この授業は、経営学・会計学に必要な考え方を身につけるため、財務諸表に関する基本的な概念を習得することを目的とする。具体的には、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本的な構造や、代表的な財務指標について学習する。 The purpose of this course is to learn basic concepts related to financial statements (Balance Sheet, Income Statement and Cash Flow Statement), in order to acquire the necessary understandings for business administration and accounting fields.			
<b>到達目標</b> 授業終了時に学生は、財務諸表の相互関連性や代表的な財務指標の意味を説明できる。			

授業の構成

１	イントロダクション
２	Fundamentals (1)
３	Fundamentals (2)
４	Fundamentals (3)
５	Connections (1)
６	Connections (2)
７	Connections (3)
８	前半のまとめ
９	Connections (4)
10	Connections (5)
11	Connections (6)
12	Using Financial Statements (1)
13	Using Financial Statements (2)
14	Using Financial Statements (3)
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への参加・小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価する。代表的な財務諸表の構造と相互の関連性、財務情報の基本的な読み方を理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用せず、定期試験を受験しない場合は欠席とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> John Tracy, <i>How to Read a Financial Report: Wringing Vital Signs Out of the Numbers</i> , Wiley (the newest Edition). その他は必要に応じて、授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 会計学関連の科目の履修が望ましい。	

授業科目名	経済政策（2単位） Economic Policy	開講時限	春学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	松本 睦（大学院環境学研究科） Mutsumi MATSUMOTO	office hour	木曜3時限（メールにて事前に アポイントメントを取ること） z42622a@cc.nagoya-u.ac.jp
<b>授業の目的</b> 本授業では地域を財政の視点から考える。我が国の地方財政の現状を概観するとともに、地方財政に関する経済理論を紹介する。国・地方の機能分担、地方歳出構造、地方税、補助金、地方債の各項目について、制度と制度を支える経済理論を学ぶ。			
The purpose of this course is to learn local public finance institutionally and theoretically. The topics include the fiscal functions of the local public sector, local public expenditures, local taxes, intergovernmental transfers and local debts.			
<b>到達目標</b> ・地方財政制度に関する基礎知識の習得 ・地方財政制度を検討・評価する理論的知識の習得			

#### 授業の構成

1	地方財政の概要（1）：国・地方の財政関係；地方財政計画
2	地方財政の概要（2）：近年の地方財政改革
3	国・地方の機能分担（1）：国・地方財政機能分担の現状
4	国・地方の機能分担（2）：財政機能分担の理論；
5	国・地方の機能分担（3）：地域間競争の理論分析
6	地方歳出と行財政改革（1）：性質・目的別経費の構造
7	地方歳出と行財政改革（2）：市町村合併と広域連携；地方行革
8	地方税（1）：地方税制度の全体像；課税自主権と地方税への制約
9	地方税（2）：地方税原則；主な地方税の仕組み
10	財政移転（1）：特定・一般補助金の区分；国庫支出金
11	財政移転（2）：地方交付税
12	財政移転（3）：地方譲与税；三位一体改革
13	地方債（1）：地方債計画と地方債制度
14	地方債（2）：財政健全化法；地方債の経済分析
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験で評価する。C 評定以上が合格要件である。試験では地方財政理論や制度に関する基礎知識を問う。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 講義前に、レジュメに目を通しておくこと。また、関係する文献・資料と併せて理解を深める工夫をすること。	

<b>教科書・参考書</b> 授業はレジュメに基づく（NUCT にアップする予定）。参考になる文献・資料は以下の通り <b>テキスト関係：</b> 「新しい地方財政論」、中井英雄，齋藤愼，堀場勇夫，戸谷裕之，有斐閣アルマ； 「地方財政学」、中井英夫，有斐閣； 「基本から学ぶ地方財政」、小西砂千夫，学陽書房； 「地方財政理論入門」、佐藤主光，新世社 <b>資料関係：</b> 「地方財政白書」毎年発行，総務省，国立印刷局。 「地方財政白書ビジュアル版」，総務省 HP。 総務省 HP（＞政策＞地方行財政）。 内閣府 HP（＞内閣府の政策＞地方分権改革）。 <b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 財政・公共経済の履修者を想定している。また、授業には近代経済学理論の応用部分があるので、ミクロ・マクロ経済学に関する基本的知識が求められる（余剰分析や乗数理論等）。
---

授業科目名	農業経済（2単位） Agricultural Economics	開講時限	秋学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	園田 正（大学院経済学研究科） Tadashi SONODA	office hour	月曜日1時限 （研究室で質問に応じる）
<b>授業の目的</b> 本講義では、農業経済学や開発経済学の基本モデル、日本で実施された農業政策、日本農業の現状に関する理解を深め、日本の農業における政策、農家の対応、その帰結を理解することを目的とする。 To understand agricultural policies, farmers' responses to the policies, and the results in Japan, this course aims to introduce some basic models in agricultural and development economics, actual agricultural policies, and current situations in Japanese agriculture.			
<b>到達目標</b> ・日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする。 ・これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにする。 ・日本の農業について、自分なりの考えをもつことができるようにする。			

授業の構成

1	現代世界の農業問題
2	食料問題の理論①
3	食料問題の理論②
4	農業調整問題の理論
5	農業成長と食料問題の克服①
6	農業成長と食料問題の克服②
7	経済発展と農業問題の転換①
8	経済発展と農業問題の転換②
9	先進国段階の農業保護
10	価格政策の破綻
11	構造政策の挫折①
12	構造政策の挫折②
13	農家モデル①（兼業行動の分析）
14	農家モデル②（農家行動の特異性の分析）
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の素点に基づいて行う。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
<b>教科書・参考書</b> 速水佑次郎・神門善久『農業経済論』岩波書店	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ミクロ経済学Ⅰの単位を修得していることが望ましい。	

授業科目名	労働経済（2単位） Labor Economics	開講時限	秋学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝（大学院経済学研究科） Noritaka KUDOH	office hour	講義終了後または予約による
<b>授業の目的</b> この講義では、労働市場に関する指標や統計を理解し、関連する理論を習得し現実のデータに応用する。特に「フロー・アプローチ」という新しい分析手法に力を注ぎ、国際比較を通じて日本の労働市場の特徴を明らかにし、労働市場に関する制度や政策など、現代の経済社会が直面する諸課題について論じることを目的とする。 This course focuses on the flow approach to the aggregate labor market by learning labor market statistics and mathematical models to explain the facts.			
<b>到達目標</b> ・伝統的需要供給分析を応用した労働市場分析を図と数式を用いて遂行できる。 ・労働市場に関する主要な統計を自ら利用できる。 ・フロー・アプローチについてデータを用いて解説でき、対応する数理モデルの骨子を説明できる。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	労働需要
3	労働供給
4	労働供給の実際
5	日本の労働生産性
6	労働市場のフロー分析
7	マッチングと有効求人倍率
8	雇用創出とジョブ・フロー
9	交渉と賃金
10	摩擦的労働市場の均衡
11	景気変動と労働市場
12	賃金格差の実際
13	賃金格差の理論
14	労働市場の規制と制度
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業の到達目標の達成度を期末試験（100％）によって判定し、基礎概念の理解、データの理解、ならびに理論分析の正確性という観点で成績を付けて単位を付与する。 履修取り下げ制度を採用しないため、期末試験を受験しなければ「欠席」となる。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に Web サイトから講義資料を得て事前に目を通す。毎回の授業後に講義内容を再現する。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書：『労働経済学』（宮本弘暁）新世社、2018 年 参考書：『サーチ理論』（今井亮一・工藤教孝・佐々木勝・清水崇）東京大学出版会、2007 年 その他：講義 Web サイト（ <a href="https://sites.google.com/site/nagoyalaborecon/">https://sites.google.com/site/nagoyalaborecon/</a> ）を通じて配布します。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ミクロ経済学とマクロ経済学の履修が望ましい。	

授業科目名	産業組織（2単位） Industrial Organization	開講時限	秋学期 火曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	花崗 誠（大学院経済学研究科） Makoto HANAZONO	office hour	アポイントメント又はメール
<b>授業の目的</b> 企業行動を説明する様々な原理を学び、市場環境が企業行動にどのような影響を与えるか、市場経済はどのように機能するかについて理解を深めるとともに、関連するビジネスエコノミクス、国際経済、金融、公共経済等に応用するための能力を育成することを目的とする。 The objective is to learn the principles of firm behavior, in relation to the interplay of market environment and firm behavior, and the working of market economy. This course also is aimed at fostering ability to apply the principles to business economics, international economics, financial economics, public economics, etc.			
<b>到達目標</b> 市場におけるさまざまな企業行動を、企業の目的合理性や戦略的な意思決定の観点からわかりやすく説明することができる。市場構造が決定される要因について、議論することができる。			

授業の構成

1	産業組織論の基礎概念と方法
2	独占企業の行動① 基礎
3	独占企業の行動② 複数財の生産と価格差別
4	垂直的企業関係①
5	垂直的企業関係②
6	企業競争① 価格競争、キャパシティ制約
7	企業競争② 数量競争
8	市場競争の社会的評価
9	差別化の競争① 水平的差別化
10	差別化の競争② 垂直的差別化、広告
11	企業の共謀
12	参入阻止
13	知的財産
14	二面市場
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験で評価する。教科書の章末問題と同程度の問題を数問課し、50%以上の評価を合格基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の講義の前後に該当する教科書の範囲を読む、また講義スライドを復習するなどして内容の理解に努めること。講義後に教科書の章末問題を解くこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書：花崗「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣ストゥディア 参考書：小田切「産業組織論—理論・実証・政策」有斐閣	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ミクロ経済学1、2の履修が望ましい。This course is offered in Japanese	

授業科目名	国際経済（2単位） International Economics	開講時限	秋学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	柳瀬 明彦（大学院経済学研究科） Akihiko YANASE	office hour	随時（要予約）
<b>授業の目的</b> 国際経済学の基礎理論を学ぶと同時に、現実の国際経済に関する様々な話題について、それらの問題の所在がどこにあり、どのように分析すべきかを理解することを通じて、基礎的分析力を身につける。 This course is designed to provide students with basic analytical ability in international economics.			
<b>到達目標</b> 国際経済学の基礎理論を理解し、現実の国際経済の諸問題をこれらの理論に基づいて分析し判断を下すことができるようになる。			

授業の構成

1	ガイダンスとイントロダクション
2	貿易の発生要因1：比較優位
3	貿易の発生要因2：規模の経済（1）独占的競争
4	貿易の発生要因2：規模の経済（2）企業の異質性
5	貿易の発生要因3：国際寡占競争
6	貿易の発生要因についてのまとめと補足
7	特殊要素モデル
8	ヘクシャー＝オリーソン・モデル
9	貿易政策はなぜ行われるのか1：交易条件動機
10	貿易政策はなぜ行われるのか2：利益団体
11	GATTとWTO
12	幼稚産業保護
13	戦略的貿易政策
14	貿易政策についてのまとめと補足
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準

原則として期末試験の成績に基づいて判断する（60点以上が合格）。授業中に得た知識や概念を用いて、与えられた問題について計算や証明を通じて正しく解答できることを、合格の基準とする。履修取り下げ制度を適用しない。詳しくは1回目の講義のときに説明します。

授業時間外学習の指示

毎回の講義後に必ず復習をすること（ノートの見直し、参考図書を読む、問題演習など）。

教科書・参考書

初回の講義で紹介します。

履修条件・関連する科目・注意事項

ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎知識を前提として講義を進めるので、復習しておくこと。



授業科目名	財政（2単位） Public Finance	開講時限	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	柳原 光芳（大学院経済学研究科） Mitsuyoshi YANAGIHARA	office hour	火曜日 16:30~18:00 研究室等で質問を受け付ける。
<b>授業の目的</b> 日本経済を俯瞰し、政府の財政状況を理解することと、政府の財政政策、特に歳入面に焦点を当て、マクロ・ミクロ経済学の視点から、理論的に受講生が理解できるようになることです。経済理論を現実の財政問題に応用することで、その問題を自らの力で捉え、解決を考えられるようになることをめざし、講義では自主的探求力の育成が図られます。 The objective of this course is to grasp Japan's economic circumstance and to understand Japan's public finance, especially revenue side, from the viewpoints of both macro and micro economics. By applying economic theories to real problems on public finance, students are expected to solve them by themselves.			
<b>到達目標</b> 日本の財政問題を日本経済の中での確に捉え、その解決について適切な経済理論を応用することによって、論理的かつ実証的に提示することができる。			

授業の構成

1	日本の経済環境
2	日本経済に対する見方
3	市場の役割
4	政府の役割
5	国家財政の予算制度
6	財政指標
7	租税概論
8	租税の実務
9	租税原則と税制度
10	消費課税：制度
11	消費課税：理論
12	所得税：制度
13	所得税：理論
14	法人税
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（100％）で評価し、C または C－評定以上を合格要件とする。なお、履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 各回の授業の後に提示される、授業内容に関する練習問題に取り組むこと	
<b>教科書・参考書</b> 森田雄一・柳原光芳編著『財政入門』，中央経済社，2019， ISBN 4502303615。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> マクロ経済学 I，II，ミクロ経済学 I，II の単位修得が望ましい。	

授業科目名	金融（2単位） Money and Finance	開講時限	秋学期 火曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	清水 克俊（大学院経済学研究科） Katsutoshi SIMIZU	office hour	講義後 または 火曜日 4時限（事前メール）
<b>授業の目的</b> 金融市場・金融機関の機能や金融政策の役割などについて基礎的知識を獲得し、金融経済学の理解を深めることを目的とする。 This course introduces the basic knowledge about the roles of financial market, financial institutions, and monetary policy and help students deepen the understandings of financial economics.			
<b>到達目標</b> 本講義の到達目標は (1) 金融経済学の基本的な原理を習得する (2) 現実の金融取引や金融市場の動向について簡単な理解と応用ができるようになる (3) 金融政策や利子率、インフレ率について簡単な理解と応用ができるようになる である。 The goals of this course are (1)to acquire the basic principles of financial economics, (2)to understand practical financial transactions and trends of financial market, (3)to understand monetary policy, interest rates, and inflation rates.			

授業の構成

1	金融取引と金融機関・金融市場：概観	Overview: Financial Economics
2	金融資産の評価	Valuations of financial assets
3	貯蓄と資産選択	Portfolio theory of financial asset 1
4	リスク資産の価格	Portfolio theory of financial asset 2
5	企業の実物投資	Valuation of investments
6	企業の資金調達	Debt and equity
7	企業の財務戦略とガバナンス	Corporate governance
8	リスク・ヘッジと金融資産	Risk hedge
9	金融市場と金融機関	Financial markets and institutions
10	金融仲介機関の機能	Role of financial institutions
11	金融制度と規制	Financial system and regulations
12	マネーと金融政策	Money and monetary policy
13	金融政策とインフレ率および利子率	Inflation rates and interest rates
14	マクロ経済と金融政策	Monetary policy and macroeconomy
15	国際金融	International finance
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニテスト（約 30%）および最終試験（またはレポート）の点数の加重平均により、総合的に評価する。上記の目的、到達目標、授業の構成の内容について、基本的な概念や用語を理解し、それらを用いて論述できることを加点の基準とする。履修取り下げ制度を採用する。		
<b>授業時間外学習の指示</b> ①教科書を読み、コンセプト・チェックや本章のポイントで要点をおさえる、②教科書に準拠した練習問題に取り組む、③ミニテストの内容を再度確認する、④web 上の参考資料をダウンロードして読む。		
<b>教科書・参考書</b> 教科書 金融経済学入門（清水克俊、東京大学出版会） 参考書 金融経済学（清水克俊、東京大学出版会）		
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 関連する専門基礎科目を履修していることが望ましい。		



授業科目名	公共経済（2単位） Public Economics	開講時限	春学期 金曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	玉井 寿樹（大学院経済学研究科） Toshiki TAMAI	office hour	金曜日3時限目 （質問方法：E-mail）
<b>授業の目的</b> 公共経済学とは公共部門の経済活動について一般的な観点から分析する経済学の応用分野であり、多様な経済問題（市場の失敗、政府の失敗、所得格差など）への解決策を考察する学問分野である。本講義では、現代の経済社会が直面するこれらの諸課題に挑戦・解決する能力を養うために、公共部門が果たすべき役割と基本的な考え方への理解を深めることを目的とする。 Public economics is one of the applied economics and the study of the public sector. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of public economics.			
<b>到達目標</b> ・公共経済学の概念や基本的な考え方についてわかりやすく説明することができる。 ・現代の経済社会が直面する様々な課題について公共経済学の概念を用いて問題の本質を理解し解決策を提示することができる。			

#### 授業の構成

1	ガイダンス：公共部門の役割
2	市場のメカニズム(1)
3	市場のメカニズム(2)
4	公共財(1)：公共財の定義・最適供給ルール
5	公共財(2)：最適な公共財供給の実現
6	外部効果
7	自然独占
8	前半のまとめ
9	価格規制
10	所得再分配
11	租税
12	年金
13	経済の安定化
14	財政の維持可能性
15	後半のまとめ
<b>成績評価の方法と基準</b> 成績評価方法：演習（20%）及び期末試験（80%）で評価する。なお、それぞれについて「C-」評定以上を合格要件とする。 成績評価基準：公共経済学に関する基本的な概念や用語を正しく理解していること、講義により得た知識や概念を用いて経済問題に対する解決策や公共部門の役割について論述できることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度：採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> NUCTを通じて講義資料を配布するので、事前に資料を準備・予習しておくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書：小川光・西森晃 著『公共経済学』中央経済社（2015年） 参考書：奥野信宏・八木匡・小川光 編『公共経済学で日本を考える』中央経済社（2017年）	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい（未履修でも受講可能）。	

授業科目名	現代資本主義（2単位） Contemporary Capitalism	開講時限	春学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	鍋島 直樹（大学院経済学研究科） Naoki NABESHIMA	office hour	月曜日16:30~17:30
<b>授業の目的</b> この講義では、ケインズとカレツキの経済学の拡張・発展をはかるポスト・ケインズ派の視角にもとづき、現代資本主義の構造と動態について考察する。20世紀以降、資本主義はどのような変貌を遂げ、経済学はそれにどう対応してきたのかの検討を通じて、現代資本主義の特質についての理解を深めることを目的とする。 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and dynamics of contemporary capitalism from the perspective of Post Keynesian economics.			
<b>到達目標</b> ポスト・ケインズ派の視角にもとづき、現代資本主義の構造と動態を自主的に探究するための能力を身につける。			

#### 授業の構成

1	現代資本主義をどう見るか
2	ケインズの経済学(1)——ケインズ革命の背景
3	ケインズの経済学(2)——『一般理論』
4	ケインズの経済学(3)——『一般理論』
5	ケインズの経済学(4)——ケインズの社会哲学と経済政策
6	カレツキの経済学(1)——「有効需要の理論」の独立の発見
7	カレツキの経済学(2)——価格と分配の独占度理論
8	カレツキの経済学(3)——利潤と国民所得の決定
9	カレツキの経済学(4)——投資と景気循環
10	カレツキの経済学(5)——完全雇用の政治経済学
11	ポスト・ケインズ派の経済学(1)——理論と方法の特徴
12	ポスト・ケインズ派の経済学(2)——経済成長と所得分配
13	ポスト・ケインズ派の経済学(3)——貨幣的生産経済の論理
14	ポスト・ケインズ派の経済学(4)——金融不安定性仮説
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験（100点満点）、および任意提出のレポート課題（25点満点）により評価する。合計で60点以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しないので、期末試験を受験しない者は「欠席」となる。ポスト・ケインズ派経済学の基本的な用語や概念を正しく理解したうえで、現代資本主義の構造と動態について適切に説明できることを合格の基準とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業後に教科書やその他の参考文献を読み、知識や理解をさらに深めるよう努めること。	
<b>教科書・参考書</b> 鍋島直樹『現代の政治経済学——マルクスとケインズの総合』（ナカニシヤ出版、2020年）を教科書として使用する。参考文献については講義中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 政治経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。	

授業科目名	経済学史（2単位） History of Economic Theories	開講時限	春学期火曜日 5 時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2 年生
担当教員名	西本 和見（中京大学経済学部） Kazumi NISHIMOTO	office hour	講義後に対応（要アポイントメント）
<b>授業の目的</b> この講義では、主に 18 世紀から現代に至るまでの経済学の発展の歴史を、理論と歴史の両面から学びます。経済学の学問的特徴は、「科学としての経済学」と「モラル・サイエンスとしての経済学」という二側面から捉えられ、本講義はその観点から進められます。本講義によって、経済学および社会科学を学ぶための基礎的な視点を身につけるとともに、複数の系譜がある経済理論の全体と、それぞれの問題意識を把握した上で、現代における諸問題に取り組むための準備を行います。 This course introduces the history of economics from the 18th century to today. In this course, economics is characterized from aspects of “economics as an exact science” and “economics as moral science.”			
<b>到達目標</b> 本講義を受けることによる到達目標は以下の通りである。 ・経済学の発展の歴史を包括的に理解し説明することができる。 ・時代背景を踏まえつつ主要な経済学者の理論と意義を説明することができる。 The goals of this course are to ・Obtain basic knowledge about the historical development of economics ・Explain the theory and significance of each economist with historical background			

授業の構成

1	イントロダクション
2	ポリティカル・エコノミーの成立—重商主義
3	経済学における古典的体系（1）—重農主義
4	経済学における古典的体系（2）—アダム・スミス
5	経済学における古典的体系（3）—リカード
6	経済学における古典的体系（4）—J. S. ミル
7	古典的体系への批判者（1）—マルクス
8	古典的体系への批判者（2）—マルクス
9	限界革命期の経済学（1）—ジェヴォンズ
10	限界革命期の経済学（2）—ワルラス、メンガー
11	ケインズとその周辺（1）—マーシャル
12	ケインズとその周辺（2）—ケインズ
13	1930 年代以降の経済学
14	そして現代へ
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験で評価する。 経済学の発展の歴史についての知識を得ていること、それを包括的に理解し説明することができること、時代背景を踏まえつつ主要な経済学者の理論と意義を説明することができることを合格の基準とする。	

履修取り下げ制度を採用しない。
<b>授業時間外学習の指示</b> 参考書で紹介している教科書の他に、初回授業時に紹介する教材を利用して予習復習を行うことが望ましい。
<b>教科書・参考書</b> 教材は授業時にプリントで配布する。 参考書：早坂忠編著『経済学史』ミネルヴァ書房、1989 年 松嶋敦茂他編著『現代経済学史の射程』ミネルヴァ書房、2019
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修を考えている者は、初回授業に出席することが望ましい。

授業科目名	社会思想史（2単位） History of Social Thoughts	開講時限	秋学期 月曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	隠岐 さや香（大学院経済学研究科） Sayaka OKI	office hour	月曜5限
<b>授業の目的</b> 社会思想の重要な著者とその思想について、その思想が生まれた社会的な背景も踏まえつつ紹介する。社会科学の思考の発展の経緯を踏まえ、「社会」や「経済」そのものを構想する社会思想がいかにして生まれたのか、それが近代化にとっていかなる意味を持ったのかを考察する。 This course provides a survey of the history of social thoughts, especially focusing on the development of the key concepts to understand our modern world, such as “society” and “economy.”			
<b>到達目標</b> 本講義を一通り受講することで、社会思想史の基礎教養が身につく。その上で、現代の経済・社会や、社会問題について自主的に思考・考察する力の基盤が形成される。			

#### 授業の構成

1	イントロダクション：「社会」が誕生するまで
2	前近代における人間・国家・宇宙：アリストテレスとプラトン
3	マキャヴェリと近代の人間
4	宗教改革と労働・資本主義
5	ホッブズとロックの古典的「社会契約」説
6	モンテスキューとルソー：文明社会と人民主権論
7	ケネーとスミス：(政治) 経済学の確立と農業・商業
8	二重革命の時代とサン＝シモン、オーギュスト・コント
9	英国の思想状況と哲学的急進主義：ベンサムとミル父子
10	社会主義とフェミニズム思想
11	ドイツの思想状況と社会主義・共産主義
12	帝国主義と科学主義の時代
13	「全体主義」批判の思想：ケインズとハイエク
14	「新自由主義」の時代とポストモダン
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点30％、期末試験70％の割合で評価する。平常点には授業参加と二、三回ほどのコメントペーパー提出などが含まれる。履修取り下げ制度は適用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回、次回のために必要な予備学習を指示する。	
<b>教科書・参考書</b> 教材は授業時にプリントの形で配付する。参考書は初回授業の時に指定する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 高校レベルの世界史の知識があることが望ましいが、未履修でも受講は可能	

授業科目名	日本経済史（2単位） Japanese Economic History	開講時限	春学期 火曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	小堀 聡（大学院経済学研究科） Satoru KOBORI	office hour	春学期火曜日15時～16時 質問は授業終了後にも受け付けます。
<b>授業の目的</b> 現代の経済社会が直面する諸課題の解決に必要な考え方を身につけるため、経済史学の基礎知識を日本経済について応用する能力を育成することを目的とする。 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills to apply fundamental knowledge of economic history to the Japanese economy. It also enhances the development of students' skill in solving today's economic problems.			
<b>到達目標</b> 現代日本経済のさまざまな特徴がどのようにしてつくられてきたのかについて、長期的視点から分かりやすく説明できる。			

#### 授業の構成

1	ガイダンス
2	公領と荘園の古代（1） 古代国家の社会・経済
3	公領と荘園の古代（2） 荘園公領制
4	貿易と戦乱の中世
5	江戸時代の経済（1） 開墾と人口増大の17世紀
6	江戸時代の経済（2） 踊り場の18世紀
7	成長の19世紀 開港から明治維新へ
8	苦闘の20世紀初頭～1920年代（1） 産業革命と帝国主義
9	苦闘の20世紀初頭～1920年代（2） 第1次世界大戦とその影響
10	転換の1930年代～60年代（1） 昭和恐慌から戦時経済へ
11	転換の1930年代～60年代（2） 「大東亜共栄圏」の形成と崩壊
12	転換の1930年代～60年代（3） 占領、復興、特需
13	転換の1930年代～60年代（4） 高度経済成長と「日本の経営」
14	国際化の1970年代以降 成長から停滞へ
15	まとめ
<b>成績評価の方法と基準</b> 中間レポート（1,200字程度：25%）＋ 期末レポート（6,000字程度：75%）で評価。総合評価でC表点以上を合格要件とする。 ※履修取り下げ制度を採用しない。期末レポート未提出の場合は「欠席」とする。 レポート課題はいずれも講義内容に関連する書評である。書籍の内容や関連する論点について、授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 講義レジュメを NUCT 経由で事前に配布するので、予め目を通してきた上で出席すること。また、毎回の授業中に紹介する参考文献を積極的に読むこと。	
<b>教科書・参考書</b> 参考書 中西聡編『日本経済の歴史―列島経済史入門』名古屋大学出版会、2013年、2,800円＋税 参考書 三和良一『概説日本経済史―近現代』第3版、東京大学出版会、2012年、2,500円＋税 講義中に一々参照することはしませんので、購入するか否かは各人の自由とします。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 一般経済史Ⅰ、Ⅱの単位を修得済みであることが望ましいが、未取得でも受講可能	

授業科目名	西洋経済史（2単位） European Economic History	開講時限	秋学期 金曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	伊藤 カンナ（大学院経済学研究科） Kanna ITO	office hour	金曜 12：00－13：00（メールで 予約してください）
<b>授業の目的</b>  この講義では、西洋経済史の基礎知識を習得し、批判的思考を養うことを目的とする。そのために、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。大航海時代以降のヨーロッパの国民国家形成と諸国がとった経済政策を検証し、さらに 18 世紀半ば以降のイギリスにおける工業化の展開と、それが人々の生活や世界経済に与えた影響を検討する。 This course is aimed at acquiring a better knowledge of economic and social changes by studying the interaction of evolving economic institutions with related social, political, cultural, and religious institutions; and facilitating critical thinking. Central topics to be considered include the development of commercial and financial institutions during the early modern periods, the causes and consequences of the British Industrial Revolution and the development of an integrated international economy, or “early globalization”. This class will provide: 1) a general overview of important events and periods in the economic history of Europe; 2) an analysis of important historical events from an economic viewpoint.			
<b>到達目標</b> ヨーロッパの歴史的経験を学ぶことで、以下の4分野の知識とスキルを発展させることができよう。 1）長期の経済的変化（経済活動の農業から工業へのシフトや世界経済の一体化等）を解釈できる 2）長期の経済成長において様々な経済間での主要な相違を比較できる 3）経済成長によって技術的優位や制度・組織的変化がどのように貢献したかを説明できる 4）近代（過去数百年）の経済発展の背後にある経済的プロセスの特徴を説明できる			

#### 授業の構成

1	西洋経済史の視座
2	宗教改革
3	国民国家の形成
4	大航海時代とスペインの盛衰
5	オランダの経済発展
6	イングランドの経済発展
7	資本主義世界経済システム
8	英国の工業化（1）前提条件
9	英国の工業化（2）農業革命
10	英国の工業化（3）プロト工業化
11	英国の工業化（4）技術革新と工場制
12	工業化と社会問題
13	世界に広がる工業化
14	ボックス・ブリタニカ
15	まとめ

<b>成績評価の方法と基準</b> 宿題や講義時のディスカッションへの積極的な参加（20%）、レポート（40%）、期末試験（40%）で評価する。それぞれについて C 評定以上を合格要件とする。授業中に得た知識や概念を適切に理解し説明できること、西洋経済史の出来事を経済理論や歴史的データを用いて論述できることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は採用しない。
<b>授業時間外学習の指示</b> ①「一般経済史」のアウトラインを復習しておくこと。②講義の中で指示した予習課題や宿題等に取り組むこと。③毎日、国際経済情勢をチェックすること。これらを前提として授業を進める。予習と復習の状況は、毎回の授業で行う小テストで確認する。
<b>教科書・参考書</b> 参考書として、馬場哲 / 山本通 / 廣田功 / 須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012 年。金井雄一 / 中西聡 / 福澤直樹『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』名古屋大学出版会。必要に応じて、授業中に紹介する。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 高校レベルの世界史の知識があることが望ましい。必要に応じて高校時代の教科書、資料集、また市販されているそれに準じる書籍で学習すること。

授業科目名	ファイナンス（2単位） Finance	開講時限	春学期 月曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	高橋 秀徳（大学院経済学研究科） Hidenori TAKAHASHI	office hour	講義後又はメール Mondays 1:30-2:30pm and by appointment
<b>授業の目的</b> This course presents the foundations of finance (modern portfolio theory and corporate finance). The topics covered include: risk-return trade-off; the mean-variance model of portfolio choice; the capital asset pricing model; market efficiency; the valuation of stocks and companies; capital structure; and payout policy. 本講義は、証券市場における伝統的なファイナンス理論（ポートフォリオ理論、資本資産価格モデル）と行動ファイナンスの解説・課題演習を通じて自主的探求力の育成することを目的とする。			
<b>到達目標</b> At the end of the course, students should have basic knowledge about finance: optimal portfolio selection; investment decision making and pricing under uncertainty; theoretical and empirical foundations to the efficient market. この授業の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを到達目標とする：リスク資産の価格付け、ポートフォリオ選択、不確実性下における投資意思決定。			

#### 授業の構成

1	Introduction
2	Risk Aversion and Capital Allocation
3	Optimal Portfolio Selection 1 - The expected return of a portfolio, The volatility of a two-stock portfolio
4	Optimal Portfolio Selection 2 - The volatility of a large portfolio
5	Risk and Return in Equilibrium: The CAPM - Beta and the equity cost of capital, Empirical evidence of the CAPM
6	Market Efficiency - Efficient Market Hypothesis (EMH), Empirical tests of the EMH
7	Anomalies - Size and value, Momentum, PEAD
8	Behavioral Finance - Heuristics, Prospect theory
9	Valuation - The time value of money
10	Valuing Stocks - The dividend-discount model, Applying the dividend-discount model
11	Capital Structure in a Perfect Market - Modigliani-Miller
12	Optimal Capital Structure - The trade-off theory, pecking order theory
13	Payout Policy - Payout versus retention of cash
14	Summary
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> The course grade will be based on (i) two (or three) papers/homework assignments (30%) and (ii) a final exam (70%). You are welcome to work in groups of up to 4 students on the homework.	

レポート 30%，期末試験 70%で評価する。レポートはグループでの提出可。 履修取り下げ制度を採用する。学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げ届を提出する必要がある。第6回までに「履修取り下げ届」の提出がない場合は、期末試験の欠席・レポートの未提出の場合でも、期末試験（レポートを含む）の不合格の場合と同じく、成績判定は「F」となります。
<b>授業時間外学習の指示</b> Some basic familiarity with Excel will be assumed for the papers. エクセルを使ったレポート課題を出します。
<b>教科書・参考書</b> <b>Reference materials</b> Berk, Jonathan, and Peter DeMarzo, <i>Corporate Finance</i> , 4th edition, Pearson, 2016. 小林孝雄・芹田敏夫（2009）『新・証券投資論Ⅰ』日本経済新聞出版社。その他、講義内で適宜紹介する。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> Prerequisites: I expect that students have a basic understanding of probability and statistics; econometrics; introductory level economics and accounting. 初級レベルの確率、統計、計量経済学、経済学、アカウンティングの知識。



授業科目名	経営労務（2単位） Personnel Management	開 講 時 限	秋学期 水曜日 2 限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配 当 年 次	2 年
担当教員名	佐野 良雄 （非常勤講師） Yoshio Sano	office hour	月・水午前中 am Mon/Wed e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
授業の目的: 経営資源（ヒト・モノ・カネ）のうち最も重要な人的資源に着目し、企業経営において人事施策がどのように機能しているのかを学ぶ 全体を3つのモジュールに分割し、講義、ケーススタディ、個人（またはグループ）研究発表により理解を深める この講義では基礎知識を応用する能力を育成する Purpose of Lecture: This lecture looks at "human resources (HR)", which is one of the most important management resources, and how HR policies are made, how the matching of company and employees are made. There are three modules (lectures, case studies and individual research presentations) by which students are expected to grasp the perspective in human resource management.			
到達目標: この講義の最終段階で、学生は「人的資源」に関する基礎的知識を身に付け、ケーススタディによる実践を学習し、自ら選択したテーマによってこれを深化させる 将来のキャリア設計や企業における「働き方」を考察する機会を獲得することができる			

授業の構成

1	イントロダクション	「働く」とは何か
2	講義 1	「企業における人事制度の実態」
3	講義 2	「異文化マネジメント」
4	講義 3	「企業の経営理念と従業員の意識」
5	講義 4	「企業の人事施策と従業員のキャリア開発」
6	講義 5	「企業倫理とコンプライアンス」
7	講義 6	「リーダーシップ」
8	講義 7	「多国籍企業の人事制度」
9	ケーススタディ	経営と人事に関するケーススタディ 1
10	ケーススタディ	経営と人事に関するケーススタディ 2
11	ケーススタディ	経営と人事に関するケーススタディ 3
12	個人またはグループプレゼンテーション 1	
13	個人またはグループプレゼンテーション 2	
14	個人またはグループプレゼンテーション 3	
15	予備日	
成績評価の方法と基準: ケーススタディに関するミニレポート(30%)および個人またはグループプレゼンテーション(60%)、出席(10%)による評価とし、C 評定以上を合格要件とする。ケーススタディに関するミニレポートでは、記載されている内容を理解しているか、それに対する問題点を把握し、解決策を提示できるかを判断し、プレゼンテーションにおいては目的に沿った研究発表が行われているか、グループプレゼンテーションの場合は他のメンバーとの協働ができているかを判断基準とする		
授業時間外学習の指示: 講義資料は講義前に Website にアップロードするので、事前に読んで置くことを推奨する ケーススタディに対するミニレポートは講義開始前に完了し、講義の際議論に参加すること プレゼンテーションは発表前に十分な準備を行うこと		
教科書・参考書: 講義資料は事前に Website にアップロードする ケーススタディは事前に配布する		
履修条件・関連する科目・注意事項: 特になし		

授業科目名	生産管理（2単位） Production Management	開 講 時 限	春学期 月曜日 3 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配 当 年 次	3 ・ 4 年
担当教員名	樋野 励 （大学院経済学研究科） Rei HINO	office hour	講義終了後、適宜受け付ける。
授業の目的 生産管理を行う上で、製造現場で解決しなければならない課題のほとんどは互いに影響を与え合い、個別に取り扱うことはできない。そのため、それらの課題の関連性と個々の課題の扱い方を学ぶことは極めて重要である。本授業では、自動車に代表される工業製品の製造を行う生産システムを対象に、基本的な事柄と対策についての自主的探求力の育成を行う。 This course will introduce the basic topics and techniques to manage the manufacturing activities appropriately. The purpose of this lecture is to enhance the management abilities in manufacturing.			
到達目標 ・生産管理の対象となる基本的な活動と互いの関係をわかりやすく説明できる。 ・生産管理を行うときの課題の代表的な解法とその使い方を理解し、計画案を示すことができる。			

授業の構成

1	生産システムの歴史と基本構造
2	製品企画と設備配置
3	工程計画
4	需要予測と緩衝
5	生産計画（生産指示）
6	資材所要量計画と押し出し方式
7	かんばんと引っ張り方式
8	スケジューリング
9	TOC とラインバランス
10	プロジェクト管理
11	コンカレントエンジニアリング
12	生産システムのモデル化とシミュレーション
13	品質管理
14	設備保全
15	総括
成績評価の方法と基準 ・生産管理のために必要ないくつかの設問に対して、適切な解法の提示と計画案を示すことができるかどうかを期末試験(100%)により評価する。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 身のまわりの工業製品の作り方について興味を持つこと。	
教科書・参考書 教材用プリントを配布し、授業の進度に応じて参考書を紹介する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	



授業科目名	マーケティング（2単位） Marketing	開講時限	秋学期 水曜日 1 時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	2 年生
担当教員名	山口 景子（大学院経済学研究科） Keiko YAMAGUCHI	office hour	講義後（メールにて事前予約）
<b>授業の目的</b> マーケティングとはなにか。それは、企業が自社の製品やサービスを売り込まなくても、消費者が自ら製品・サービスのブランド名を好意的に記憶し、その特徴を理解し、喜んで継続的に財布を開いてくれる状態をつくるための考え方と、そこから生み出される手段です。モノや情報があふれる現代社会において、企業が成長しつづけるためには、優れたマーケティング戦略を立案・実行できるマーケターが必要とされています。本講義では、マーケティングの考え方と基礎事例を学びながら、企業が抱えるマーケティング課題を解決するマーケターに必要な自主的探求力を育成することを目的とします。			
What is marketing? Briefly speaking, marketing is the concept and process to achieve it to get consumers to memorize brand names on their own, understand brands' characteristics, and keep their minds open to those brands with delight. To expand the business under harsh competitions in recent years, companies require brilliant marketers who can make and execute effective marketing plans. This course aims at developing the ability of self-exploration to solve marketing issues that companies have through learning the basic concepts of marketing and those cases.			
<b>到達目標</b> ・マーケティングの基本概念および専門用語の意味をわかりやすく説明できる ・新しいビジネスプランに対して、簡単なマーケティング戦略および計画を設計でき、それらを企画書の形で提案できる			

授業の構成

1	イントロダクション+ グループワークのためのチームビルディング
2	事業機会と事業領域の選択
3	標的市場の選択
4	市場データ分析
5	競争分析・競争対応
6	グループワーク
7	消費者行動分析
8	製品対応
9	価格対応
10	コミュニケーション対応
11	流通チャネル対応
12	グループワーク振り返り
13	市場との対話（1）
14	市場との対話（2）
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> グループで取り組む中間レポート（50%）および 期末試験（50%）の割合で評価する。それぞれについて C	

または C－評定以上を合格要件とする。 ・中間レポートにおいては、授業中に得た知識や概念を用いて、新たなビジネスプランとそのプランを成功させるためのマーケティング戦略について論述できることを合格の基準とする。 ・期末試験においては、マーケティングに関する基本的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度は採用しない。中間レポートが未提出 または 期末試験が未受験の場合は「欠席」とする。
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読んだ上で授業に臨んでください。 毎回授業内で簡単なワークに取り組み、次の授業にて当該ワークのフィードバックを行います。授業後にフィードバック内容を自身の学習・ワークに反映させる時間を必ず設けてください。 なにより、身の回りのマーケティング事例に興味・関心をもつこと、書籍、新聞や Web ニュースなどで（マーケティングに関わらず）世の中の出来事にアンテナをはることを日々実行してください。
<b>教科書・参考書</b> 教科書：和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦. 2016. 『マーケティング戦略 第 5 版』有斐閣. 参考書：コトラー & ケラー. 2014. 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第 3 版』丸善出版.
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 講義資料を NUCT にて事前配布する（原則）。各自ダウンロードした上で講義に参加すること。 外部講師招聘の都合上、授業の構成が変更になることがある。

授業科目名	経営組織 （2単位） Organization and Management	開 講 時 限	春学期 金曜日 3 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配 当 年 次	3 ・ 4 年
担当教員名	犬塚 篤（大学院経済学研究科） Atsushi INUZUKA	office hour	質問は講義中にすること（毎回、 質問のタイミングを用意する）
<b>授業の目的</b> 本講義では、組織の中で自ら課題を発見し、解決できる力を身に付けるため、経営学の基本である環境適応について深く理解することを目的とする。前半では、戦略論を中心に、外部環境と組織目標の関わりについて学ぶ。後半は、そうした組織目標の実現に必要な組織論について学ぶ。 This course is designed to build a skill to find and solve problems occurred in an organization by a deeply understanding of the basis of management, “organizational adaptation.” The topics related to strategic management and the ones related to organizational management will be given in the former and the latter part, respectively.			
<b>到達目標</b> ・環境適応を阻む要因について理解する ・組織現象（問題）が発生するメカニズムについて理解する			

授業の構成

1	経営組織（序論）：「環境適応」とは何か
2	外部環境適応（1）：線を引け
3	外部環境適応（2）：四方を見よ
4	外部環境適応（3）：三つのアプローチ
5	外部環境適応（4）：二つの対立軸
6	外部環境適応（5）：一步を踏み出せ
7	中間討議（ケーススタディ A）
8	中間討議（ケーススタディ B）
9	内部環境適応（1）：条件適合理論
10	内部環境適応（2）：組織設計の原則
11	内部環境適応（3）：インセンティブ体系
12	内部環境適応（4）：モチベーション理論
13	内部環境適応（5）：リーダーシップ論とその限界
14	総括：経営理論ではなく、経営学的思考法を身に付けるということ
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> ・試験（70%）＋中間レポート（30%）－欠席点＋発言点の素点に基づき、60 点以上を合格要件とする。欠席点はその回数に応じて、2 回（5%）、3 回（15%）、4 回（30%）、5 回（50%）、6 回以上（75%）をそれぞれ試験の素点から減ずる。発言点は、1 コマあたり 1～3 点を加点する。 ・履修取り下げ制度を適用しない。中間レポート未提出の者または試験未受験者は、「欠席」とする。 ・代返（代筆）やエスケープは、依頼者と援助者の双方を即不合格とする。中間レポートの共同作業も本人への確認の上、大幅減点とする。講義中にスマホやゲームをする者は、その回を欠席扱いとする。	

<b>授業時間外学習の指示</b> ・毎回の講義前に、当該回の講義ノートに目を通しておくこと。 ・中間レポートを課す（提出期限は、第 6 回の講義終了時まで）。
<b>教科書・参考書</b> ・教科書：なし。講義ノート等を、NuCT（ <a href="https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal">https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal</a> ）より配布する。 ・参考書①：M.E. ポーター（著）、土岐・服部・中辻（翻訳）『新訂 競争の戦略』ダイヤモンド社、1995。 ②：野中郁次郎『経営管理』日本経済新聞社、1983。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ・原則として、毎回出席できることを履修要件とする。 ・過去の受講生のコメントや講義動画を HP に公開しているので、履修決定する際の参考にされたい。 <a href="http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~inu/classes.html">http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~inu/classes.html</a>

授業科目名	経営戦略（２単位） Management Strategy	開 講 時 限	秋学期 月曜日 ２時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配 当 年 次	３・４年
担当教員名	宮崎 正也（大学院経済学研究科） Masaya MIYAZAKI	office hour	月曜日 １時限 （事前予約のうえ面会して対応）
授業の目的 ・企業の経営者に必要とされる意思決定の能力を高めるため、経営戦略の論理とその分析手法を習得することを目的とする。This course aims to help students acquire an understanding of the principles and the analytical frameworks of management strategy in order for them to become able decision makers.			
到達目標 ・「経営戦略の論理と分析手法をわかりやすく説明できる」 ・「戦略的思考を日常生活で実践できる」			

#### 授業の構成

１	事業戦略の考え方
２	他社との「違い」をつくる
３	コストを引き下げる
４	専門性を身につける
５	顧客ニーズの違いに対応する
６	顧客の「片付けるべき用事」を手伝う
７	製品寿命を管理する
８	業界標準を活用する
９	「出会い」の場を提供する
10	新製品を創り出す
11	業務範囲を仕分ける
12	知的財産を活用する
13	競争優位が持続する理由
14	事業環境の分析・選択・操作
15	まとめと評価

#### 成績評価の方法と基準

・「課題レポート（１回実施）」を４割、そして「期末試験」を６割の割合で総合したものを受講者の評点とし、CまたはC－評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しないため、期末試験未受験者は「欠席」評価とする。

・経営戦略論に関する基本的な概念や用語を正しく理解していること、ならびに授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。

#### 授業時間外学習の指示

受講者は、NUCTから講義スライドのファイルを入手して、予習・復習で活用すること。

#### 教科書・参考書

教科書：『コア・テキスト 事業戦略』 新世社、 宮崎正也 著  
参考書：『デマンド・サイド経営学』 中央経済社、 宮崎正也 著

#### 履修条件・関連する科目・注意事項

・履修要件なし。「課題レポート」未提出の場合は、期末試験の受験資格を失うので気をつけること。

授業科目名	財務会計（２単位） Financial Accounting	開 講 時 限	秋学期 金曜日 ２時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配 当 年 次	２年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） Akihiro NOGUCHI	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand intermediate financial accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
到達目標 Course Objectives The goals of this course are to ・be able to understand and explain accounting treatments based on accounting theory. ・be able to understand and explain some advance contents of bookkeeping.			

#### 授業の構成

１	Accounting Information System
２	Inventories
３	Property Plant and Equipment
４	Intangible Assets
５	Current Liabilities
６	Goodwill
７	Non-Current Liabilities
８	Equity
９	Accounting for Income Taxes
10	Revenue Recognition
11	Lease
12	Financial Instruments
13	Pensions and Postretirement Benefits
14	Standards and Conceptual Framework
15	Summary

#### 成績評価の方法と基準

原則として、NUCT上のテスト&クイズ 70%、出席票 30%で評価します。

S評価のみ追加の小テストを行います。中級レベルの財務会計の知識を習得していることを合格の基準とします。履修取り下げ制度を採用しません。期日までに出席票を提出しない場合は欠席と評価します。

Test and Quizzes in NUCT (70%), Attendance Sheet (30%).

For “S”, there will be an additional test during the course. Understanding contents of the standard intermediate accounting course will be required for passing the test.

Not submitting the Attendance Sheet will be graded as “absent”.

#### 授業時間外学習の指示

教科書を読んだ上で、講義に出席して下さい。指定された期日までにNUCT上のテスト&クイズを各自解答して下さい。

Please read the textbook before attending the lecture. Please visit NUCT website regularly so that you

do not miss tests and quizzes.
<b>教科書</b> Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, <i>Intermediate Accounting</i> , IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018. 日本公認会計士協会東海会編『実務から学ぶ会計のトレンド』中央経済社。 <b>参考書</b> 桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣アルマ。 伊藤邦雄著『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社。 <b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 講義は日本語で行われます。ただし、英語で記述された教科書を用い、NUCT 上のテスト&クイズは英語で出題します。会計Ⅰ・会計Ⅱレベルの知識は履修に不可欠です。シラバスの変更については、講義中にアナウンスします。 Lecture will be conducted in Japanese.

<b>授業科目名</b>	管理会計（2単位） Management Accounting	<b>開講時限</b>	秋学期 金曜日 4時限
<b>科目区分</b>	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	<b>配当年次</b>	2年
<b>担当教員名</b>	坂口 順也（大学院経済学研究科） Junya SAKAGUCHI	<b>office hour</b>	要予約（各質問に対応） By appointment
<b>授業の目的</b> この授業は、経営学・会計学に必要な考え方を身につけるため、管理会計（経営管理のための管理会計情報やコントロール・システムの利用）における基本的な概念を習得することを目的とする。具体的には、業績管理会計、意思決定会計、近年の管理会計について学習する。 The purpose of this course is to learn the basic concepts of management accounting (use of management accounting information for performance evaluation and/or decision making), in order to acquire the necessary understandings for management and accounting fields.			
<b>到達目標</b> 授業終了時に学生は、管理会計の手法を用いて経営管理の問題を説明できる。			

#### 授業の構成

1	イントロダクション
2	原価分解
3	利益計画
4	予算管理1（総論・予算編成）
5	予算管理2（予算編成）
6	予算管理3（予算統制）
7	事業部制会計
8	業績管理会計のまとめ
9	業務的意思決定
10	構造的意思決定1（総論・多様な評価技法）
11	構造的意思決定2（NPVの基本問題）
12	構造的意思決定3（NPVの応用問題）
13	近年の管理会計の動向1（ABCとBSC）
14	近年の管理会計の動向2（原価企画）
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への参加・小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価する。管理会計の基本的な計算方法、経営管理の問題に対する管理会計手法のインプリケーションを理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用せず、定期試験を受験しない場合は欠席とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 加登豊編著『インサイト管理会計』中央経済社。 その他は必要に応じて、授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 会計学関連の科目の履修が望ましい。	

授業科目名	監査（2単位） Auditing	開講時限	秋学期 水曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹（大学院経済学研究科） SEMBA, Hu Dan	office hour	講義後 （予めメールでの質問を推奨）
<b>授業の目的</b> 企業をとりまく株主、債権者等の利害関係者の意思決定に際して、経営者が提供する情報が偏りのない公正なものか否かは極めて重要な問題である。本講義では、経営者が利害関係者に対して提供する財務情報の信頼性の保証手段である監査の基礎について講義し、受講者に学習させ、経営学の一角を占める監査の知識を身につけ、現代の経済社会が直面する監査の諸課題に理解を深め、解決に挑む知力を育むことを目的としている。This lecture is designed as to let participants understand/think deeply the core important concepts of auditing field, and is expected to help participants have solutions/ the ways to find solutions for the future challenges in practical modern economic social.			
<b>到達目標</b> （授業終了時に学生は、）監査に関する基本的な仕組と方法および成り立ちを含む基礎知識についてご自身によってわかりやすく説明できる。			

授業の構成

1	監査の定義	イントロー「監査」とは？
2		監査の必要性
3	監査結果の開示	監査報告書からみた監査の意義と限界の理解と
4		監査の発展
5	法定監査	金融商品取引法監査と会社法監査
6		会社法とコーポレート・ガバナンス
7	リスク・アプローチ &監査実施プロセス	リスク・アプローチ（１）
8		リスク・アプローチ（２）
9		監査基準とリスク・アプローチ
10		リスク・アプローチと監査実施基準
11		リスク評価と監査手続
12		内部統制（１）
13		内部統制（２）
14		監査の実施と監査意見表明等
15	まとめと評価	
成績評価の方法と基準		
平常点（出席状況や講義中における問題演習の完成状況：30%-40%）に試験の結果（60%-70%）で評価する。それぞれについて C または C－評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を適用せず、本講義では試験を受験しない者は、「欠席」とする。講義中の内容についての演習問題を適切に回答できること、講義中の内容あるいは講義中指定の内容に関するコンテンツを適切に説明できることを合格の基準とする。		
授業時間外学習の指示		
毎回の授業前に教科書等の指定箇所を読んでおくこと。		
教科書・参考書		
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論』（最新版）同文館出版。参考書は必要に応じて、指示する。		
履修条件・関連する科目・注意事項		
1．講義は、簿記を含む会計学の基礎知識があることを前提に進める。2．授業内容について実施状況に応じて変更することがある。3．よければ、事前に <a href="http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/index.html">http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/index.html</a> まで講義を進める上で利用するレジュメを各自プリントアウトして利用すること。		

授業科目名	経営分析（2単位） Business Analysis	開講時限	春学期 水曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	角ヶ谷 典幸（大学院経済学研究科） Noriyuki TSUNOGAYA	office hour	火曜日 12:00-13:00（要予約） 質問がある場合も同上
<b>授業の目的</b> 経営分析の手法を身につけるため、会計学における基礎的な概念と企業価値評価の理解を深めることを目的とする。 The purpose of this course is to learn the method of business analyses using basic concepts of financial statements and valuation techniques.			
<b>到達目標</b> 授業終了時に、学生が自ら実際に公表されている財務報告書を入手し、経営分析できるようにすること。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	貸借対照表・損益計算書の作成・理解
3	キャッシュ・フロー計算書の作成
4	キャッシュ・フロー計算書の理解
5	連結財務諸表の作成
6	連結財務諸表の理解
7	連結財務諸表の分析
8	中間まとめ
9	収益性の分析
10	生産性の分析
11	安全性の分析
12	成長性の分析
13	リスクの分析
14	経営分析事例
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義への貢献（20%）および期末試験（80%）の合計点で評価する。 講義への貢献については、授業中に質問した事項に対して回答できるか否かを基準とする。また、期末試験については、授業中に解説し議論した知識や内容について正しく理解していることを合格の基準とする。 なお、履修取り下げ制度は適用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に講義資料の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 講義資料は、NUCTに掲載する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 会計Ⅰ・Ⅱ、財務諸表Ⅰ・Ⅱおよび財務会計の履修が望ましい。	

授業科目名	国際会計 （2単位） International Accounting	開講時限	春学期 木曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	向 伊知郎（愛知学院大学経営学部） Ichiro Mukai	office hour	講義後教室にて
<b>授業の目的</b> ・この授業では、グローバル企業の多くが採用している国際財務報告基準(IFRS)の内容および日本の会計基準との相違について学びながら、IFRS の適用が財務情報に及ぼす影響について学びます。 ・The aim of this course is to help students acquire an understanding of the International Financial Reporting Standards (IFRS) and the effect of applying IFRS on firm's financial information.			
<b>到達目標</b> ・IFRS と日本の会計基準の相違についての知識、およびグローバル企業の比較財務諸表分析を行う能力を身につけることができる。 ・The goals of this course are to (1) Understand the differences between IFRS and Japan's accounting standards, and (2) Obtain an ability to analyze financial statements prepared by IFRS.			

#### 授業の構成

1	イントロダクション～多国籍企業の出現と国際会計～ Introduction: Multinational Enterprises and International Accounting
2	会計基準の国際的調和と収斂への動向 International Convergence of Accounting Standards
3	IFRS の基礎的特徴 Conceptual Framework for Standard-Setting
4	財務諸表の表示 Presentation of Financial Statements
5	収益認識の会計 Revenue Recognition
6	金融商品の会計 Financial Instruments
7	棚卸資産・固定資産の会計 Inventories and Non-current Assets
8	リース取引の会計 Lease
9	減損の会計 Impairment of Assets
10	退職給付・引当金の会計 Post-employment Benefits and Provision
11	法人所得税の会計 Income Taxes
12	企業結合・連結財務諸表の会計 Business Combinations and Consolidated Financial Statements
13	のれんの会計 Goodwill
14	外貨換算の会計 Foreign Currency Translation

15	まとめと評価 Summary and Course Evaluation
<b>成績評価の方法と基準</b> ・期末試験(70%)、レポート(30%) で評価する。それぞれについて C 評定以上を合格要件とする。 ・IFRS 設定の意義、その特徴および財務情報への影響について適切に説明できることを合格の基準とする。 ・履修取り下げ制度は採用しない。 ・Grading will be decided based on the total score of Final Exam (70%) and Paper & Quiz (30%). Each passing requirement is "C" rating or higher. ・Grading criterion are to be able to explain the significance of IFRS, its features compared to Japan's accounting standards, and its impact on financial information.	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に講義資料 ( <a href="http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html">http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html</a> ) および教科書各章を読んでおくこと The students are expected to read the text and the assigned materials before a class. Materials can be downloaded from the website: <a href="http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html">http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html</a> .	
<b>教科書・参考書</b> （教科書・Text Book）向伊知郎（2019）『ベーシック国際会計』中央経済社。 （参考書・Reference Book）IASB. (2019) <i>IFRS</i> . IASB. （企業会計基準委員会・財務会計基準機構監訳（2019）『IFRS 基準』中央経済社。）	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 会計に関する基礎知識を有していることが推奨されます。 この授業は日本語で提供されます。 It is recommended that students have basic knowledge of accounting. This course will be taught in Japanese.	



授業科目名	経営情報（2単位） Management Information	開講時限	秋学期 木曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励（大学院経済学研究科） Rei HINO	office hour	講義終了後、適宜受け付ける
<b>授業の目的</b> 我々の身のまわりはデータで溢れており、データを活用することで種々の問題に対して適切な行動を取ることができる。本授業では、多変量解析の基礎的な手法について学び、目的に応じたデータの処理と分析の方法を習得する。 This course will introduce the basic topics and techniques to analyze the data for decision making by multivariate analysis. The purpose of this lecture is to enhance the analysis abilities in management.			
<b>到達目標</b> ・多変量解析に用いられる基礎的な手法についてわかりやすく説明できる。 ・入手した情報の解析を行い、データ間の因果関係の判定および将来の値の推測を行うことができる。			

授業の構成

1	線形代数の基礎(1)
2	線形代数の基礎(2)
3	相関分析(1)
4	相関分析(2)
5	単回帰分析(1)
6	単回帰分析(2)
7	重回帰分析(1)
8	重回帰分析(2)
9	判別分析(1)
10	判別分析(2)
11	主成分分析(1)
12	主成分分析(2)
13	因子分析(1)
14	因子分析(2)
15	総括
<b>成績評価の方法と基準</b> ・多変量解析に関する設問に対して、適切な値を求めることができるかどうかを期末試験(100%)により評価する。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 授業で説明した課題については自分でも計算を行うこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教材用プリントを配布し、授業の進度に応じて参考書を紹介する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は要さない	

授業科目名	経済政策特論（2単位） Advanced Course of Economic Policy	開講時限	春学期 火曜日4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	萬行 英二 (大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター) Eiji MANGYO	office hour	By appointment. Please bring questions to a meeting set by appointment.
<b>授業の目的</b> This course enhances Research Ability by learning how previous good empirical studies in development/health/labor economics established causality rather than just correlation. (開発、健康および労働経済における優れた文献が、どのように、因果関係を実証しようとしているか知見を得ることを目標とする：研究能力の向上を目標とする講義。)			
<b>到達目標</b> Students are expected to understand the difference between correlation and causality and to have decent knowledge about research designs and econometric methods taken by previous good studies in economics to establish causality. (本コース終了時に学生は、相関と因果関係の違いを理解し、既存文献が因果関係を立証するために行っているリサーチ・デザインや計量経済の手法について知識を得ることができる。)			

授業の構成

1	Human capital issues 1: Health and development (人的資本1：健康と開発)
2	Human capital issue 2: Return to health (Econometric identification problems 1) (人的資本2：健康への投資：実証研究で問題となるポイント1)
3	Human capital issue 3: Return to education (Econometric identification problems 2) (人的資本3：教育への投資：実証研究で問題となるポイント2)
4	Human capital issue 4: Return to education (Econometric identification problems 3) (人的資本4：教育への投資：実証研究で問題となるポイント3)
5	The effect of income on health: a welfare program in the US (所得が健康に与える影響：米国における福祉プログラム)
6	The effect of income on health: lottery prizes as an exogenous source of income variation (所得が健康に与える影響：外生的所得変動としての宝くじ賞金)
7	The relative income hypothesis (相対所得仮説)
8	The effect of macroeconomic shock on health and education (マクロ経済ショックが健康や教育に与える影響)
9	The effect of environment on health: early-life exposure to polluted air (環境が健康に与える影響：生後すぐに大気汚染に晒される影響)
10	The effect of international child sponsorship on adult life outcomes (途上国の子供に対するスポンサーシップ・プログラムが、教育や成人後の雇用に与える影響)
11	The effect of early-life food shortage on later adult health (胎児期の食料不足が成人後の健康に与える影響)
12	Ethnic complementarities in mathematics research productivity (数学研究の生産性において共著者が共通の文化や言語を持つと生産性の向上につながるか)
13	The effect of parental time on infant health (両親の労働時間が乳児の健康に与える影響)
14	The effect of a large-scale school construction program on education and wages (大規模学校建設プログラムが教育と賃金に与える影響)
15	The role of gene-environment interactions (遺伝子と環境の相互作用)
<b>成績評価の方法と基準</b> To measure the level of understanding on the concepts covered in the course, the following assignments	

will be given: class presentation on a previous study (50%) and term paper (to summarize a previous study's contributions to the literature) (50%). To pass this course, (1) class presentation needs to clearly explain how a previous study of her/his choice established causality and (2) term paper makes clear the contributions of a previous study of her/his choice to the literature. To withdraw from this course, please complete a specified paper work. 下記を判断材料として学生の学習到達度を評価。既存文献のプレゼンテーション（５０％）学期末レポート（既存文献の学術的貢献をまとめる）（５０％）。合格要件は、（１）プレゼンテーションにおいては、既存文献がどのように因果関係を立証しているか明確に説明できることとし、（２）期末ペーパーでは、既存文献が果たした学術的貢献を明確にすることとする。履修取り下げ制度を採用する。
<b>授業時間外学習の指示</b> Students are expected to complete required reading specified in the course syllabus.（シラバスに指定された必読文献を読む。）
<b>教科書・参考書</b> Reading materials are listed in the course syllabus to be distributed in the first lecture.（講義で議論する文献は講義初日に配布するシラバスにリストされている。）
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> Prerequisites: Basic microeconomics, Basic statistics, Introductory econometrics including fixed-effects and instrumental-variable estimations. Reference: Wooldridge. Introductory Econometrics: A Modern Approach, Chapter 14 (fixed-effects estimation) and Chapter 15 (Instrumental-variable estimation). This course will be taught in English.

<b>授業科目名</b>	農業経済特論（２単位） Advanced Course of Agricultural Economics	<b>開講時限</b>	春学期 月曜日２時限
<b>科目区分</b>	専門系科目 経済学科専門科目	<b>配当年次</b>	３・４年
<b>担当教員名</b>	園田 正（大学院経済学研究科） Tadashi SONODA	<b>office hour</b>	月曜日１時限 （研究室で質問に応じる）
<b>授業の目的</b> 本講義では、様々な生産関数の推定法と技術効率の測定法を学び、農業経済学における生産分析の基礎的・発展的方法を理解することを目的とする。 To understand basic and advanced methods for production analysis in agricultural economics, this course aims to introduce various methods for estimating production functions and measuring technical efficiency.			
<b>到達目標</b> ・生産関数の推定において投入量変数が内生性をもつ原因を理解する。 ・投入量変数の内生性の問題への対処法がどのように発展してきたかを理解する。 ・技術効率の意味を理解し、その測定法を理解する。			

授業の構成

１	イントロダクション
２	生産技術の理論的特徴
３	最小二乗法の集計データへの適用とその問題点
４	最小二乗法の集計データへの適用とその問題点（続き）
５	投入量の内生性への対応①（パネルデータ分析）
６	投入量の内生性への対応②（操作変数法）
７	投入量の内生性への対応③（一般化積率法）
８	投入量の内生性への対応③（一般化積率法：続き）
９	投入量の内生性への対応④（proxy 法（1））
10	投入量の内生性への対応④（proxy 法（2））
11	投入量の内生性への対応④（proxy 法（3））
12	技術効率性の計測①
13	技術効率性の計測②
14	技術効率性の計測③
15	総復習
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の素点に基づいて行う。履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
<b>教科書・参考書</b> 必要に応じて授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 基本的な計量経済学とミクロ経済学の知識をもつことを前提とする。	

授業科目名	労働経済特論（2単位） Advanced Course of Labor Economics	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝（大学院経済学研究科） Noritaka KUDOH	office hour	By appointment
授業の目的 This course is designed to build your research ability in the field of macro-labor economics. The course focuses on the long-run issues such as (1) the effect of technological progress on unemployment; and (2) wage inequality.			
到達目標 After this course, students should be able to (1) understand the frontier of research in the field of unemployment and inequality in the long run; (2) write their own computer codes to replicate existing quantitative results found in professional articles; and (3) develop their own research.			

#### 授業の構成

1	Dynamic Optimization in Continuous Time
2	Economic Growth
3	Economic Growth
4	Economic Growth
5	Equilibrium Unemployment
6	Equilibrium Unemployment
7	Unemployment with Job Heterogeneity
8	Growth and Unemployment
9	Growth and Unemployment
10	Growth and Unemployment
11	Growth and Unemployment
12	Firm Heterogeneity
13	Firm Heterogeneity and Wages
14	Firm Heterogeneity and Unemployment
15	Growth and Unemployment with Firm Heterogeneity
成績評価の方法と基準 There will be 2 or 3 take-home assignments, in which students are asked to replicate theoretical and quantitative results in articles discussed in class. To pass the course, you should earn C or above for each assignment. Quantitative questions require computational packages such as Mathematica (commercial) and Maxima (free of charge). While graduate students and undergraduate students are evaluated differently, you need to understand that this course is demanding for undergraduate students. Only highly motivated students should consider taking this course.	
授業時間外学習の指示 There will be 2 or 3 take-home assignments. Each lecture is based on a particular article, and students need to read each paper in advance of each class. You must be highly motivated.	
教科書・参考書 Christopher A. Pissarides, <i>Equilibrium Unemployment Theory</i> , 2nd edition, MIT press, 2000. Daron Acemoglu, <i>Introduction to Modern Economic Growth</i> , Princeton University Press, 2009. For more information, visit <a href="https://sites.google.com/site/gradlaborb/">https://sites.google.com/site/gradlaborb/</a>	
履修条件・関連する科目・注意事項 I will assume that you are familiar with dynamic optimization. This could be demanding for undergraduate students. I will welcome highly motivated students. Students need to install some (free) computational packages such as Maxima in your computer. Lectures of this course will be delivered entirely in English.	

授業科目名	産業組織特論（2単位） Advanced Course of Industrial Organization	開講時限	秋学期 金曜日 5時限
科目区分	経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	花崗 誠（大学院経済学研究科） Makoto HANAZONO	office hour	アポイントまたはメール
授業の目的 産業組織論で近年重要度の高まっている消費者探索の研究を概観し、このトピックに関連するテーマで論文を執筆するために必要な知識を習得することを目的とする。 The purpose is to overview the development of the study of consumer search, which has been important in Industrial Organization, and to acquire knowledge for doing research on the related theme.			
到達目標 消費者探索の理論の概要を理解し、わかりやすく説明することができる。 比較的最近の研究論文を読みこなし、新しい論点を見出すことができる。			

#### 授業の構成

1	Introduction
2	Search for Prices (Stigler)
3	Diamond Paradox (Diamond)
4	Classic Price Dispersion 1: firm heterogeneity (Reinganum)
5	Classic Price Dispersion 2: consumer heterogeneity (Varian)
6	Information Gatekeepers (Baye and Morgan)
7	Pandora Problem (Weitzman)
8	Search for Matching (Wolinsky)
9	Prominence in Consumer Search (Armstrong, Vickers and Zhou)
10	Summary of Empirical Studies
11	Student Paper Presentation
12	Student Paper Presentation
13	Student Paper Presentation
14	Student Paper Presentation
15	Student Paper Presentation
成績評価の方法と基準 演習（50%）、レポート（50%）。演習はグループによる論文報告による。レポートは研究のプロポーザル（A4で3-5ページ）。到達目標にかんがみ、それぞれC評価以上を合格基準とする。	
授業時間外学習の指示 各講義の題材となっている論文や書籍を初回に指定し、それを予習、復習時に読むこと。	
教科書・参考書 初回に文献リストを配布する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学 II, 産業組織の履修が望ましい。	

授業科目名	国際経済特論（2単位） Advanced Course of International Economics	開講時限	秋学期 月曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	柳瀬 明彦（大学院経済学研究科） Akihiko YANASE	office hour	By appointment
授業の目的 This course offers materials in international trade theory under imperfect competition. The goal is to enhance students' research ability by complete understanding of basic models of international trade and their applications.			
到達目標 Students will be able to understand the basic models of international trade under imperfect competition; they can understand the basic structure of each model and mechanism at work. Students will also be able to read research articles that are applications of the basic models, and to construct and analyze models on their own.			

授業の構成

1	Introduction and preliminaries
2	Preliminaries: Monopolistic competition
3	Preliminaries: Oligopoly
4	Review of trade models under perfect competition
5	Monopolistic competition and international trade: Basic model
6	Monopolistic competition and international trade: Firm heterogeneity
7	International Oligopoly: Third market model
8	International Oligopoly: Reciprocal market model
9	General oligopolistic equilibrium: Preliminaries
10	Trade in general oligopolistic equilibrium
11	Trade policy under imperfect competition
12	Foreign direct investment
13	Other topics (trade and the environment, trade and growth, economic geography, etc.)
14	Summary
15	Final exam
成績評価の方法と基準 Participation in class, submission of homework assignments (30%), and final exam (70%). Evaluation is based on total score, and students are required to get 60% or higher to pass. Both for homework and exam, students should correctly prove propositions or derive equations in the model by using knowledge and tools discussed in the class. The course withdrawal system is applied; students who do not take the final exam will receive an F grade.	
授業時間外学習の指示 Students should spend their time on review after the class (going through the material and references, doing computation of models on your own, etc.).	
教科書・参考書 To be announced in the class.	
履修条件・関連する科目・注意事項 Students should be familiar with basics in undergraduate-level microeconomics and noncooperative game theory.	

授業科目名	財政特論（2単位） Advanced Course of Public Finance	開講時限	春学期 木曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	齋川 浩司（国際経済政策研究センター） Koji SAIKAWA	office hour	講義終了後又は随時予約
授業の目的 この講義では、税・社会保障・地方財政など財政政策についての基本的な知識を題材として提供します。日本が直面する政策課題について議論することを通じて、自主的探究力を育成することを目的とします。This course provides students with some materials of various public finance policy issues, including tax, social security, and local government finance. The purpose of this course is to enhance voluntary exploration ability through discussing the policy issues facing Japan.			
到達目標 各種課題について多面的に検討することを通じ、政策の分析及び立案能力を涵養する。			

授業の構成

1	（租税概論）租税原則と租税体系
2	（所得課税）所得の意義
3	（所得課税）最低限の生活と所得税
4	（所得課税）働き方の変化と所得税
5	（所得課税）金融所得課税の現状と課題
6	（法人課税）法人税の性質と各種事業体の課税
7	（法人課税）税務会計と企業会計
8	（国際課税）国際的二重課税調整
9	（消費課税）消費税の歴史と理論
10	（租税概論）新たな分野の経済活動と税
11	（社会保障論）財政の現状・年金制度のあり方
12	（社会保障論）子育て支援制度の現状と課題
13	（地方財政）国と地方との財源配分・地方交付税制度
14	（地方財政）固定資産税制度の現状と課題
15	予備・まとめ
成績評価の方法と基準 講義内で2回課すレポートをもとに、評価する。C評定以上を合格要件とする。 授業で得た知識をもとに、論述できることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 講義では、各種制度や政策の論点を指摘するので、各自、授業後に私見をまとめること。	
教科書・参考書 教科書は使用しない。毎回の授業で講義資料を配付する。参考書については講義の中で紹介する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	金融特論（2単位） Advanced Course of Money and Finance	開講時限	春学期 火曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	齊藤 誠（大学院経済学研究科） Makoto SAITO	office hour	火曜日4時限
<b>講義の目的</b> 本講義では、古今東西の通貨と信用の歴史を振り返る作業を踏まえて、現代の金融の諸課題（たとえば、非常に攻撃的な量的金融緩和、暗号通貨の普及、金融危機の予防と対応など）を解明する視座を得ることを目的とする。 This lecture devotes its two thirds to a history of credits and currencies in both western and eastern countries including Japan, and the remaining one third to discussions of current policy issues, including cryptocurrencies, quantitative easing, and financial crises, in the historical contexts.			
<b>到達目標</b> 受講生が、金融史、経済史にかかわる理論的、実証的な研究を深いレベルで理解するとともに、そこから得た知見を現在の金融制度や金融行政、あるいは、金融政策へ応用できる能力を養う。			

#### 授業の構成

1	人間関係のなかにある金融：約束と信用、貨幣の聖俗、信用の膨張と抑制
2	共同体における交換と信用：信用なき物々交換と略奪、信用と貨幣の螺旋階段、記憶としての貨幣
3	銀行の誕生：譲渡可能な預金、預託から預金へ、口頭の約束から文書の契約へ
4	信用創造：信用を超越する信用、株式会社の誕生、中央銀行の誕生、バブル狂騒曲、国家の金融から産業の金融へ
5	越境する通貨と信用：外国為替手形、金本位制の栄光と挫折、基軸通貨、非常時の外国為替
6	銀の世界、金の世界：新大陸の銀と価格革命、金本位制度とゴールドラッシュ、19世紀米国の通貨論争、貨幣数量説の起源
7	中央銀行の形：決済のプラットフォーム、最後の貸し手、物価の安定と経済の安定、セニョリッジ
8	貨幣と信用の日本史：古代の貨幣と信用、中世の信用と徳政、戦国時代の国際金融、江戸時代金融の爛熟、戦争と金融、沖縄返還と通貨
9	利子をめぐる攻防：近代のための神学に向けて
10	破約に対する過酷と寛容：返済をめぐるモラルとペナルティー
11	証券取引の風景：店頭の取引、取引所の取引
12	デリバティブの世界：「信用を超越した信用」を超越する信用
13	金融史から見た暗号通貨の世界：暗号通貨は信用貨幣なのか、鋳貨なのか
14	金融史から見た金融危機への対応：危機における人間たち
15	金融史から見た攻撃的な量的緩和と政策：量的緩和による信用創造の限界、負の金利政策の帰結

#### 成績評価の方法と基準

毎回、講義に即した小テストを宿題に課するとともに、学期の最後に提出期限1週間を目途とした持ち帰りの試験を課す。評価については、講義ごとに提出してもらう小テスト（40%）、期末レポート（60%）で評価する。全体として、C-評点以上を合格要件とする。

成績評価の基準は、毎回の講義の内容について、予習をし、講義を受け、宿題を含み復習してきたのかどうか、そして、そうした学習行為の成果が期末提出レポートに十分に反映されているかどうかで評価を行う。なお、履修取り下げ制度は採用しない。

#### 授業時間外学習の指示

毎回の講義において、当該回の講義に関する小テストを宿題に課するとともに、次回の講義内容に関する予習文献を指定する。学期の最後には、期限を1週間と設けた期末レポートを課す。

#### 教科書・参考書

最初の講義で関連論文のリーディングズを配布する。参考書としては、デヴィッド・グレーバー『負債論：貨幣と暴力の5000年』（以文社、2016年）を批判的に用いていく。

#### 履修条件・関連する科目・注意事項

受講者が毎週、論文や参考書を精読しておくことを前提とする講義である。

授業科目名	公共経済特論（2単位） Advanced Course of Public Economics	開講時限	秋学期 火曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	玉井 寿樹（大学院経済学研究科） Toshiki TAMAI	office hour	火曜日4時限目 （質問方法：E-mail）
<b>授業の目的</b> 公共経済学の最新研究のうち、租税、政府支出、国債及び社会保障に関する動学的分析について解説し、発展的な内容への理解を深めるとともに、公共経済学分野の課題に関して高度な議論を展開できる能力を身に着けることを目的とする。 This course deals with the recent dynamic studies of taxation, public expenditure, public debt, and social security. It also enhances the development of students' skill in explaining the advanced issues in the field of Public Economics.			
<b>到達目標</b> 公共経済学の主要課題について理解し、公共経済学分野の課題に関して高度な議論を展開することができる			

#### 授業の構成

1	イントロダクション Introduction
2	租税・政府支出と経済成長(1) Taxation and Government Expenditure in a Growing Economy (1)
3	租税・政府支出と経済成長(2) Taxation and Government Expenditure in a Growing Economy (2)
4	租税・政府支出と経済成長(3) Taxation and Government Expenditure in a Growing Economy (1)
5	租税・政府支出と経済成長(4) Taxation and Government Expenditure in a Growing Economy (2)
6	国債と経済成長(1) Debt in a Growing Economy (1)
7	国債と経済成長(2) Debt in a Growing Economy (2)
8	前半のまとめ Summary (1)
9	国債と経済成長(3) Debt in a Growing Economy (3)
10	国債と経済成長(4) Debt in a Growing Economy (4)
11	社会保障と経済成長(1) Social Security in a Growing Economy (1)
12	社会保障と経済成長(2) Social Security in a Growing Economy (2)
13	社会保障と経済成長(3) Social Security in a Growing Economy (3)
14	社会保障と経済成長(4) Social Security in a Growing Economy (4)
15	後半のまとめ Summary (2)

#### 成績評価の方法と基準

成績評価方法：報告（50%）及び期末レポート（50%）で評価する。なお、それぞれについて「C-」評定以上を合格要件とする。

成績評価基準：公共経済学の発展的な概念を用いて主要課題についてわかりやすく説明できることを合格の基準とする。

#### 授業時間外学習の指示

毎回の授業前に指定された論文を読んでおくこと。

#### 教科書・参考書

Hindriks, J. and G.D. Myles, Intermediate Public Economics (2nd ed.), 2013, MIT Press.  
Atkinson, A.B. and J.E. Stiglitz, Lectures on Public Economics (Updated ed.), 2015, Princeton University Press.

#### 履修条件・関連する科目・注意事項

ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい（未履修でも受講可能）。基本的な数学の知識（線形代数・解析学）を必要とする。



授業科目名	現代資本主義特論（2単位） Advanced Course of Contemporary Capitalism	開講時限	秋学期 木曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	藤田 真哉（大学院経済学研究科） Shinya FUJITA	office hour	金曜日12時から13時まで 研究室での面談
<b>授業の目的</b> 本授業の前半ではポスト・ケインズ派経済学の分配理論を、後半ではアメリカ・ラディカル派の分配理論を概説する。両派の理論を学習することを通じて、所得分配に関するマクロ的・ミクロの問題を分析する応用能力を育むことを目標としている。 This course enhances the applicable ability in studying income distribution from the viewpoint of post-Keynesian economics and the US radicals.			
<b>到達目標</b> この授業を通じて、新古典派以外の方法論（主にポスト・ケインズ派とラディカル派）を用いて所得分配にまつわる諸問題を分析する応用能力を身に付けることができる。			

#### 授業の構成

1	ガイダンス
2	ポスト・ケインズ派経済学の基礎
3	機能的所得分配と個人的所得分配Ⅰ
4	機能的所得分配と個人的所得分配Ⅱ
5	機能的所得分配と個人的所得分配Ⅲ
6	機能的所得分配と経済成長Ⅰ
7	機能的所得分配と経済成長Ⅱ
8	機能的所得分配と経済成長Ⅲ
9	小括
10	アメリカ・ラディカル派の基礎
11	分配理論Ⅰ
12	分配理論Ⅱ
13	分配理論Ⅲ
14	分配理論Ⅳ
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 演習（50%）、レポート（50%）で評価する。すべて併せてC 評定以上を合格要件とする。 与えられた課題について基本的な概念や用語を用いて授業中に発表でき、かつレポートで論述できることを合格の基準とする。 出席が30%以下の場合は「欠席」とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に指定された論文を読むこと。	
<b>教科書・参考書</b> 最新の英語論文を用いる。論文は初回のガイダンスにおいて紹介する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 本授業の履修者は初回のガイダンスに必ず出席しなければならない。 This course will be taught in Japanese.	

授業科目名	経済学史特論（2単位） Advanced Course of History of Economic Theories	開講時限	春学期 火曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	鍋島 直樹（大学院経済学研究科） Naoki NABESHIMA	office hour	月曜日16:30~17:30
<b>授業の目的</b> 20世紀最大の経済学者であるジョン・メイナード・ケインズの生涯と著作について総体的に考察する。これを通じて、経済学史の応用能力を養うことを目的とする。 This course aims to enhance the applicable ability in the history of economic theories by learning the life and works of John Maynard Keynes.			
<b>到達目標</b> ケインズの思想と理論を総体的に理解することを通じて、経済学史の応用能力を習得する。			

#### 授業の構成

1	序論
2	倫理——ケインズのビジョンの源泉（1）
3	倫理——ケインズのビジョンの源泉（2）
4	知識——不確実性、確率、モラル・サイエンス（1）
5	知識——不確実性、確率、モラル・サイエンス（2）
6	政治——自由主義と社会主義を超えて
7	戦争と平和——ボーア戦争からヴェルサイユまで
8	貨幣——経済的原動力にして社会的病理（1）
9	貨幣——経済的原動力にして社会的病理（2）
10	労働——失業との闘い（1）
11	労働——失業との闘い（2）
12	金——人類に奉仕する国際通貨体制
13	芸術——芸術の理論家・消費者・後援者
14	結論——ケインズからケインズ主義へ
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告（50%）、試験（50%）で評価する。それぞれについてC 評定以上を合格要件とする。ケインズの思想と理論について正確に理解したうえで、それを適切に説明できることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度を採用しない。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 輪読形式で授業を進めるので、報告者は担当箇所のレジュメを作成する。また、毎回の授業後に教科書やその他の参考文献を読み、知識や理解をさらに深めるよう努めること。	
<b>教科書・参考書</b> ジル・ドステレール『ケインズの闘い——哲学・政治・経済学・芸術』（藤原書店、2008年）を教科書として使用する。開講時までに各自で入手しておくこと。参考文献については講義中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 経済理論および経済学史について、学部レベルの知識を習得していることを前提とする。	



授業科目名	社会思想史特論（2単位） Advanced Course of History of Social Thoughts	開 講 時 限	春学期 金曜日 5 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科専門科目	配 当 年 次	3 ・ 4 年
担当教員名	隠岐 さや香（大学院経済学研究科） Sayaka OKI	office hour	木曜 5 限
<b>授業の目的</b> 一八世紀の啓蒙思想は今でも論争の対象であり続けている。「啓蒙」は人間がどう生活しているか、地上での人間生活をどう改善できるかを理解しようとする思想的な努力および実践であった。その所産の一つは経済学の誕生である。だが現代、「啓蒙」は一方で「進歩」や「近代」をもたらした思想として称賛され、他方では今日にも続く人種差別や経済的不平等、科学・技術による人間支配をもたらした元凶として批判される。この授業では講義と近年翻訳された研究文献読解を通じ、「啓蒙」とは一体何であったのかを再検討する。その上で、それが二一世紀を生きる私たちにとっていかなる意味を持つのかを考察する。 This course provides basic knowledge on the concept of Enlightenment, as one of the most polemical terms, and its deeper understanding through the discussions based on the reading materials chosen from the most recent historical researches.			
<b>到達目標</b> 宗教、民主主義、ジェンダーなど、現代社会を二分する論争の多くは啓蒙思想の時代にその原型を見ることが出来るため、本授業を通じて、社会問題について歴史的経緯を踏まえて把握することが可能となる。また、経済学は啓蒙思想から多くを受け継いでいるため、この授業を通じて、経済学の根本となる思想に何があったのかを的確に把握することができるようになる。			

#### 授業の構成

1	イントロダクション
2	一八世紀と二一世紀の類似点と相違点
3	思想史における近代と啓蒙（1）
4	思想史における近代と啓蒙（2）
5	課題文献講読とディスカッション
6	課題文献講読とディスカッション
7	課題文献講読とディスカッション
8	課題文献講読とディスカッション
9	課題文献講読とディスカッション
10	課題文献講読とディスカッション
11	課題文献講読とディスカッション
12	課題文献講読とディスカッション
13	課題文献講読とディスカッション
14	課題文献講読とディスカッション
15	総合討論
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点40％、発表あるいはレポート60％の割合で評価する。発表は課題文献を正確に読み込んでいるか、レポートは授業中に得た知識や概念を用いて論述を行えているか等で評価する。発表を行った者はレポートを免除する。平常点には授業参加（ディスカッション）と授業後のコメントペーパー提出などが含まれる。履修取り下げ制度は採用しない。出席が30％以下の場合は「欠席」とみなす。	

<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に課題文献の指定箇所を読んでくる
<b>教科書・参考書</b> 課題文献（日本語あるいは英語版の購入が必要）：ジョン・ロバートソン『啓蒙とはなにか 忘却された〈光〉の哲学』野原慎司・林直樹訳、白水社、2019 年（John Robertson, <i>The Enlightenment: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2015）。 授業中に配付する参考文献：カント「啓蒙とは何か―『啓蒙とは何か』という問いに答える」『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他3編』中山元訳、光文社文庫、2006 年、9-30 頁。 ミシェル・フーコー「啓蒙とは何か」石田英敬訳『フーコー・コレクション6 生政治・統治』小林康夫、石田秀敬、松浦寿輝編、ちくま学芸文庫、2006 年、363-395 頁。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 社会思想史あるいは経済学史等を履修していると理解が深まるが、未履修でも受講可能

授業科目名	日本経済史特論（2単位） Advanced Course of Japanese Economic History	開講時限	春学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	木越 義則（大学院経済学研究科） Yoshinori KIGOSHI	office hour	随時（予約）。質問はメールもしくは講義後にも受け付けます。
<b>授業の目的</b> この講義では、日本を中心とする東アジア地域の経済発展の歴史を学ぶことによって、現代の東アジア諸国が直面する諸課題を、学術的に分析できる能力を培います。 This lecture enhances Basic Ability to analyze the problems of modern East Asian economies theoretically by studying the history of economic development in East Asia, especially Japan.			
<b>到達目標</b> ・日本を中心とする東アジア地域における農業と工業の発展について、近世から現代に至る概観を理解する。 ・日本における経済発展の特質を、欧米諸国との共通点、相違点を比較しつつ、説明できる知識を獲得する。 ・日本経済史、アジア経済史を巡る論争、学説を理解し、それに対して自分なりの見解、評価を述べることができる知識を獲得する。			

#### 授業の構成

1	イントロダクションー日本経済史の方法と学説
2	東アジアの近世
3	東アジアの開国・開港
4	明治維新改革
5	中国・朝鮮の国家的対応
6	日本の産業革命と東アジア
7	中国の工業化
8	日本の重化学工業化
9	日本帝国と植民地
10	満洲経済
11	日本の戦時経済
12	大東亜共栄圏の経済構造
13	戦後改革
14	日本の高度成長
15	アジアの高度成長

#### 成績評価の方法と基準

- ・レポート（2回各30%合計60%）、平常点（40%）で評価する。それぞれについてC評定以上を合格要件とする。
- ・レポート評定
  - S：日本経済史を巡る学説、論争を理解し、自分なりの見解を実証的に論述することができる。
  - A：日本経済史を巡る学説、論争を理解し、先行研究を論理的に説明することができる。
  - B：日本の経済発展の概観を、授業の内容にそくして説明することができる。
  - C：日本の経済発展の特質について基礎的な知識をもっている。
- ・平常点評定
  - 授業への参加意欲、発言、質問などから総合的に判断する。

・「欠席」の扱い：出席が3分の2を下回る場合は「欠席」とする。
<b>授業時間外学習の指示</b> 予習：教科書の該当章を通読しておくこと。 復習：授業中に指摘したキーワードを再確認するとともに、授業時に提示する練習問題に取り組むこと。
<b>教科書・参考書</b> 堀和生・木越義則『東アジア経済史』（日本評論社、2020年3月刊行予定） 久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代史』（東京大学出版会、2016年）
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 高等学校の世界史・日本史、特に近世・近代・現代の基礎知識があること。 一般経済史Ⅰ、一般経済史Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授業科目名	西洋経済史特論（2単位） Advanced Course of European Economic History	開講時限	秋学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	福澤 直樹（大学院経済学研究科） Naoki FUKUZAWA	office hour	木曜日 14:45～15:45 この時間以外にも質問を受け付ける。メール等で申し込むこと。
<b>授業の目的</b> 現代経済は全般的に見て、ヨーロッパや北米で典型的に展開されてきたタイプの市場指向の経済秩序によって強く規定されている。このコースで学生は、西洋におけるそのような経済秩序の歴史的出現の基盤、背景、および論理を（またその際には、世界の他の地域への影響を考慮しつつ）彼ら自身の動機と関心に基づき学習し、世界的展開を見せる現代の自由主義市場経済社会の本質についての理解を深め、自主的に探究する能力を育成する。 The modern economy is determined by the market-oriented economic order which has been typically developed in Europe and North America. In this course students learn the bases, backgrounds and logics for historical emergence of such an economic order in the West (also in considering its influence to the rest of the world) and the essence of the modern economic society on their own motive and interest, whereby the voluntary exploration ability will be fostered.			
<b>到達目標</b> 学生は19世紀的自由主義市場経済のあり方と20世紀のそれをそれぞれ対照的に理解できるようになり、併せて19世紀の市場経済の機能上の問題や20世紀的な調整された自由主義の意味を理解できるようになる。世界経済の一体化の諸相から、今日の世界経済的諸問題の根底にある基礎的な認識を得られるようになる。20世紀後半の大衆消費社会の生成と経済成長の論理についての展望を得られるようになる。近年の社会経済的構造変動に論理的にアプローチする一定の手法を会得できるようになる。			

授業の構成

1	近現代経済史の位置づけと意義
2	19世紀の主要国の工業化
3	周辺工業国の（社会経済的）展開
4	近代的金融システムの生成／国家の役割
5	世界経済の一体化と周辺従属地域
6	19世紀末大不況と世界経済の構造変動
7	20世紀への転換期における世界経済
8	国際経済諸関係の崩壊—第一次世界大戦とその後
9	大恐慌の勃発（1929年）とその帰結（1930年代世界大不況）
10	自由主義市場経済へのまなざし—自由主義・ニューディール・ファシズム・社会主義
11	第二次世界大戦後世界経済の再建と高度経済成長／東西対立
12	南北問題の諸相とその分岐（南南問題）
13	高度経済成長の終焉と新たな世界経済の構成
14	冷戦大戦の解体と新たな世界経済秩序
15	まとめと評価
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験を実施し、また期末に一通のレポートを課す。講義出席他、総合的な学習状況も加味する。なお、履修取り下げ制度は採用しない。評価のウエイトは、期末試験 60%、レポート 30%、総合的な学習状況 10%とし、上記の到達目標について一定程度論述できることを合格の基準とする。	

授業時間外学習の指示
毎回、次回に向けての予習箇所を指示するので、その部分を必ず読んでくること。それを前提として授業を進める。
教科書・参考書
ロンド・キャメロン／ラリー・ニール（速水融 監訳）『概説 世界経済史Ⅱ 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013年を教科書とする。またNUCTを用いた教材の配布も行う。
履修条件・関連する科目・注意事項
高校の世界史レベルの予備知識は必要となる。足りない場合は各自で補うこと。また、学部レベルの経済史の講義を既習していることが望ましい。 This course will be taught in Japanese.

授業科目名	経営労務特論（2単位）Advanced Course of Personnel Management	開講時限	春学期 水曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	砂口 文兵（相山女学院大学現代マネジメント学部） Bumpei Sunaguchi	office hour	メールでの対応（sunaguchi@sunaguchi-u.ac.jp）を行います。
<b>授業の目的</b> 本講義の目的は、人事管理論の基礎に関わる研究論文（英語/English）を理解し、さらに最新の研究論文（英語/English）の理論的意義ならびに実務的意義を理解できるようになることである。またその目的の達成に伴い、本講義から得た知見を受講生自らが自身の研究（卒業論文を含む）に活用できる能力を獲得することを目指す。This class aims to enable students to apply the fundamental knowledge of personnel management to their own research. In order to attain the goal, this class requires students to read various research articles written in English.			
<b>到達目標</b> 本講義の終了時において、学生は人事管理論に関する基本的概念、ならびにそれに関連する研究論文を理解できるようになる。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	輪読 1
3	輪読 2
4	輪読 3
5	輪読 4
6	輪読 5
7	輪読 6
8	輪読 7
9	輪読 8
10	輪読 9
11	輪読 10
12	輪読 11
13	輪読 12
14	予備日
15	予備日

成績評価の方法と基準

本講義の成績評価は、1) 課題に関する資料の提出頻度と質、2) ディスカッションへの積極度と（建設的）貢献度、に応じて行う。なお、欠席の際の資料提出も認めるが、欠席（i.e., 出席できない回数）が合計 4 回以上の場合、理由を問わず、「欠席」とする。ただし、欠席の際の資料提出も認めるが、「0.5 回分」の出席としてカウントし評価する。成績評価の基準等に関しては、初回講義（ガイダンス）で説明する。評価水準は大学院講義と同様である。

授業時間外学習の指示

本講義の受講に関しては、課題文献（下記「履修条件・関連する科目・注意事項」も参照）の精読が不可欠となる。また、輪読に用いる課題文献に関しては、毎回の講義で事前課題を課すため、それら事前課題の作成も必要となる。

<b>教科書・参考書</b> 本講義で用いる文献等に関しては、初回講義（ガイダンス）で指示・説明する。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 本講義は、毎週平均 20 ページ（最低でも 10 ページ）の論文（英語/English）を読む大学院講義を、適性のある一部の学部生に開放したものである。そのため、前述した論文を読めない、または本講義の受講により、他の講義に支障が出る場合は履修を勧めない。すなわち、英語論文を読む一定以上の能力と意志を持たない学生には、履修を勧めない。また、本講義は人事管理論（およびそれに関連する組織行動論）の基礎知識を「すでに」有しているか、それ以上の知識・専門性を「これから」築くことを強く望む、ということを履修の条件として受講生に求める。さらに、初回講義（ガイダンス）において、報告形式を含めた講義の説明を行うため、初回講義（ガイダンス）に参加できない者については、事前に理由の申し出があった場合を除き、講義の受講を認めない。Although the class will basically be held in Japanese, if necessary, discussion can be done in English.

授業科目名	ファイナンス特論（2単位） Advanced Course of Finance	開 講 時 限	秋学期 火曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 経営学科専門科目	配 当 年 次	3 ・ 4 年
担当教員名	中島 英喜（大学院経済学研究科） Hideki NAKASHIMA	office hour	開講後アナウンスします
授業の目的 本講義では、学部レベルの金融経済学（フィナンシャル・エコノミクス）の知識を既に習得している学生を対象として、証券投資論と資産価格論における自主的探求力のさらなる育成を図ることを目的とする。 This course enhances Research Ability in portfolio theory and asset pricing.			
到達目標 (1) 現代投資理論（MPT）に基づくポートフォリオ選択を PC 上で実行できる、(2) 資産価格の標準的な評価式（CAPM）を導出できる、(3) CAPM を用いた株価評価を実行できる。 Three goals are set: (1)Selecting optimal portfolio on MPT, (2)Deriving standard CAPM, and (3)Estimating a stock price on CAPM. Exercises with PC will be arranged as needed.			

授業の構成

1	イントロダクション、基本的な用語の定義
2	キャッシュフローの 4 分類、資産市場の分類
3	金利と債券価格（裁定取引と無裁定条件）
4	株式投資と効率的市場仮説
5	確率と統計（演習課題）
6	不確実性下の意思決定と期待効用仮説
7	稲作モデル（1）
8	稲作モデル（2）
9	期待効用最大化原理とポートフォリオ選択
10	MPT と分離定理
11	等質期待仮定と資本市場線
12	CAPM と証券市場線
13	CAPM の実証
14	完全市場における株価の評価
15	総復習

成績評価の方法と基準

出席報告（20%）、レポート（80%）で評価する。素点合計の 100 点満点換算で 60 点以上を合格要件とする。評価方法は上記の 3 つの目標に関する理解の程度とその説明の適切さによる。なお、履修取り下げ制度は採用しない。出席 6 割未満、もしくは本人からの連絡があれば「欠席」と判断する。

授業時間外学習の指示

講義に用いる教材は下記サイトで予め公開する。受講生は授業前に一通り目を通しておくのが望ましい。  
(<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~nakashima/FEM/index.htm>)

教科書・参考書

テキストは指定しない。適宜教材を提供する。参考図書：(1) 小林孝雄，他「新・証券投資論（理論編）」（日本経済新聞社）、(2) リチャード・ブリーリー，他「コーポレート ファイナンス」（日経 BP 社）。

履修条件・関連する科目・注意事項

教養レベルの微分・積分、および線形代数の基礎的な知識（簡単な逆行列の演算ができる）、さらに学部レベルの確率・統計の知識（共分散や回帰分析の定義と内容を説明できる程度の知識）が必須。受講対象は卒業論文等で CAPM を使う必要がある者を想定。

授業科目名	生産管理特論（2単位） Advanced Course of Production Management	開 講 時 限	秋学期 木曜日 2 時限
科 目 区 分	専門科目 経営学科専門科目	配 当 年 次	3 ・ 4 年
担当教員名	山田 基成 Motonari YAMADA	office hour	木曜日 12：00～12：30 質問はメールでも受け付ける
授業の目的 この講義では、運営管理とサプライチェーン・マネジメントの基礎的な理論と手法について学ぶ。 This course studies basic theory and methods in operations and supply chain management.			
到達目標 生産とサービスのマネジメントについての基礎的な知識と管理手法を身につけることにより、将来の職務の中でこれを活かすことを目指す。			

授業の構成

1	Introduction
2	Design of Products and Services
3	Strategic Capacity Management
4	Manufacturing Processes
5	Facility Layout
6	Service Processes
7	Process Design and Analysis
8	Statistical Quality Control
9	Lean Supply Chain
10	Logistics, Distribution and Transportation
11	Global Sourcing and Procurement
12	Enterprise Resource Planning Systems
13	Sales and Operations Planning
14	Inventory Management
15	Material Requirements Planning

成績評価の方法と基準

成績評価は、講義への出席（10 点）、討論への参加（40 点）、課題レポート（50 点）により総合的に評価し、合計 60 点以上を合格要件とする。履修取り下げ制度は採用しない。出席が 3 0 % 以下の場合は「欠席」とする。

授業時間外学習の指示

受講生には毎回、テキストを熟読した上で出席することを求める

教科書・参考書

F. Robert Jacobs & Richard B. Chase (2018) *Operation and Supply Chain Management, 15th ed.*, McGraw-Hill Education.

履修条件・関連する科目・注意事項

前期に開講される生産管理の単位を取得していること。  
英語の文献を読むのに慣れておくこと。

授業科目名	マーケティング特論（2単位） Advanced Course of Marketing	開講時限	春学期 火曜日 1 時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山口 景子（大学院経済学研究科） Keiko YAMAGUCHI	office hour	By appointment
<b>授業の目的</b> この講義では、マーケティング分野の実証研究を計画・実施するために必要な実験計画と統計分析の基礎知識を学ぶことを通して、学生のみなさんの研究スキルを強化し、ご自身の研究の遂行をサポートすることを目的としています。 この講義は、大学院および G30 Graduate School との合同開講科目です。大学院生への学びの提供を主眼におき、マーケティング・サイエンス分野での学術論文執筆を考えている学生向けにデザインされています。  This course aims to introduce basic knowledge about experimental designs and statistical methods to plan and do empirical analyses of marketing, enhance their research abilities, and help them conduct their research in graduate school. This course is designed for students who seek to conduct original research in the field of marketing science.			
<b>到達目標</b> The goals of this course are the following: ・Students will be able to choice/read appropriate academic papers/books about marketing science on their own. ・Students will be ready to plan their own research in the social science field based on the knowledge they earn in the class.			

#### 授業の構成

1	Introduction & Chapter 1: Introduction
2	Chapter 2: Observing Behavior (1)
3	Chapter 2: Observing Behavior (2)
4	Chapter 2: Activities
5	Chapter 3: Asking Questions (1)
6	Chapter 3: Asking Questions (2)
7	Chapter 3: Activities
8	Chapter 4: Running Experiments (1)
9	Chapter 4: Running Experiments (2)
10	Chapter 4: Activities
11	Chapter 5: Creating Mass Collaboration (1)
12	Chapter 5: Creating Mass Collaboration (2)
13	Chapter 6: Ethics (1)
14	Chapter 6: Ethics (2)
15	Chapter 7: The Future & Summary
<b>成績評価の方法と基準</b> Your final grade will be calculated according to the following process:	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Class attendance and contribution to in-class discussion (30%)</li> <li>・ Presentation (30%)</li> <li>・ Short essay or in-class work on “Activities” (20%)</li> <li>・ Final report (20%)</li> </ul> The requirements for passing the course are as follows: ・ You can join in-class discussions with your original ideas. ・ You can summarize the contents in the textbook precisely and illustrate them to the audience clearly. ・ You can propose constructive ideas so that students in the class can develop their understandings of the experimental designs and analytical methods, and they can also make their research plans. ・ You can plan your original research plan by yourself.
※ If you are absent from this class more than four times, you will get "F" automatically.
<b>授業時間外学習の指示</b> All participants are expected to read assigned chapter beforehand and work on “Activities” proactively in the class.
<b>教科書・参考書</b> Salganik, M. J. (2017). <i>Bit by Bit: Social Research in the Digital Age</i> . Princeton Univ. Press
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> This course will be taught <u>in English</u> . Basic knowledge about marketing, mathematics, and statistics are required. Students who skip the 1 <sup>st</sup> class without prior approval by the instructor are NOT accepted.



授業科目名	経営組織特論 （2単位） Advanced Course of Organization and Management	開 講 時 限	秋学期 金曜日 3時限
科 目 区 分	専門系科目 経営学科専門科目	配 当 年 次	3・4年
担当教員名	犬塚 篤（大学院経済学研究科） Atsushi INUZUKA	office hour	質問は講義中にすること（毎回、質問のタイミングを用意する）
<b>授業の目的</b> ・本講義は、ナレッジマネジメントに関連するトピックについて、最新の学術論文を紐解きながら講義する。Empirical Study と呼ばれる 6つの回では、各論に関する原著論文の議論を通じて、優れた研究論文を書くために必要なアカデミックマインドやスキルを習得する。 <u>The course will provide topics related to “knowledge management” with up-to-date empirical studies. The course has six lessons named “Empirical Study” in which the lecturer and students discuss adequacy or techniques used in reading assignments (empirical papers). Through the discussion, the course expects students to obtain academic mind and/or skill (research ability) which are required to write their own papers.</u>			
<b>到達目標</b> ・原著論文の統計数字の意味や、分析の技法、読解の要点を掴むコツを習得する。 ・原著論文の問題点を発見し、それを反面教師とすることで、優れた論文を書くスキルを身につける			

授業の構成

1	Introduction to empirical study in social sciences
2	A toolbox of social sciences
3	The principle of firms and organizations
4	Empirical Study 1
5	Empirical Study 2
6	Knowledge sharing and transfer 1
7	Knowledge sharing and transfer 2
8	Empirical Study 3
9	Empirical Study 4
10	Network building and utilization 1
11	Network building and utilization 2
12	Empirical Study 5
13	Empirical Study 6
14	Knowledge integration 1
15	Knowledge integration 2, overall discussion
<b>成績評価の方法と基準</b> ・Empirical Study レポート（10点×6回）＋期末レポート（40点）で、60点以上を合格要件とする。 ・履修取り下げ制度を適用しない。ただし、Empirical Study に二回以上欠席をした者、および期末レポート未提出の者は「欠席」とする。 ・議論に非積極的な学生に対しては、その回の Empirical Study のレポート評定を減ずることがある。 ・学部生向けの特別な配慮（就活やインターンによる欠席等）は一切しない。	

<b>授業時間外学習の指示</b> ・Empirical Study では、指定される原著論文（すべて英文）を深く読解してから、講義に臨むこと。 Empirical Study で使用する文献の書誌情報は、初回の講義で指示する。
<b>教科書・参考書</b> ・教科書：なし。履修登録後、講義ノートを、NuCT（ <a href="https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal">https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal</a> ）より配布する。 ・野中郁次郎(1995)『知識創造の経営』東洋経済新報社。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> ・統計学の基礎知識、中級以上の英文読解力および日本語の理解力を必要とする。大学院生向け授業のため、講義内容は高度であることを覚悟されたい。 ・講義は日本語で行われる。議論は英語で参加しても良い（The lectures will be given in Japanese. You can participate discussions in English）。

授業科目名	経営戦略特論（2単位） Advanced Course of Management Strategy	開講時限	春学期 月曜日4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	宮崎 正也（大学院経済学研究科） Masaya MIYAZAKI	office hour	月曜日1時限 (事前予約のうえ面会して対応)
授業の目的 ・企業経営で必要とされる戦略的思考を理解するため、実務家による経営の実践事例を取り上げて検討することを目的とする。This course aims to help students acquire a way of strategic thinking through the discussions about some management cases in practice.			
到達目標 ・「経営戦略の論理と分析手法を現実に応用できる」 ・「戦略的思考を日常生活で実践できる」			

授業の構成

1	講義の進め方と、事例として取り上げる企業の紹介（企業名は開講日に公表）
2	企業事例①に対する事前学習
3	経営実践の企業事例①：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
4	企業事例②に対する事前学習
5	経営実践の企業事例②：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
6	企業事例③に対する事前学習
7	経営実践の企業事例③：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
8	企業事例④に対する事前学習
9	経営実践の企業事例④：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
10	企業事例⑤に対する事前学習
11	経営実践の企業事例⑤：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
12	企業事例⑥に対する事前学習
13	経営実践の企業事例⑥：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
14	企業事例⑦に対する事前学習
15	経営実践の企業事例⑦：実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
成績評価の方法と基準 ・事前学習の課題提出状況と質疑応答への参加度（70%）、そして期末レポート（30%）を総合して算出される評点をもとに評価し、C または C- 評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しない（期末レポートを提出しなければ「欠席」扱いにする）。 ・企業経営に関する理論的な知識や概念を用いて、経営現象を議論できることを合格の基準とする。	
授業時間外学習の指示 ・実務家から企業事例の報告を聞く前に、事前学習（その企業や業界に関する情報収集）を行うこと。 ・実務家から企業事例の報告を聞く回に、質疑で使用する「質問項目リスト」を作成し、提出すること。	
教科書・参考書 教科書：とくに指定しない 参考書：『デマンド・サイド経営学』 中央経済社、 宮崎正也 著	
履修条件・関連する科目・注意事項 ・履修条件はとくになし。企業への就職を意識している3年次学生の積極的な参加を期待する。	

授業科目名	財務会計特論（2単位） Advanced Course of Financial Accounting	開講時限	春学期 木曜日4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） Akihiro NOGUCHI アーマドバ・メーリバン（大学院経済学研究科） Ahmadova Mehriban	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
Course Aims This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand intermediate financial accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
Course Objectives The goals of this course are to ・be able to understand and explain accounting treatments based on accounting theory. ・be able to understand and explain some advance contents of bookkeeping.			

授業の構成

1	Introduction
2	Accounting for Income Taxes
3	Accounting for Net Operating Losses
4	Accounting for Pensions
5	Past Service Cost
6	Accounting for Postretirement Benefits
7	Accounting for Leases
8	Lessor Accounting
9	Sales-Leasebacks
10	Accounting Changes
11	Statement of Cash Flows
12	Full Disclosure Principle
13	Auditor's and Management's Reports
14	Essay presentation
15	Summary
成績評価の方法と基準 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Test and Quizzes in NUCT (30%), Presentation (40%), Essay (30%). The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not submitting essay will be graded as ‘Absent’. Passing criteria is 60% of the overall grade. The course withdrawal system is not adopted, but not submitting the final essay will be marked as "Absent".	
授業時間外学習の指示 You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues.	
教科書・参考書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, <i>Intermediate Accounting</i> , IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018.	
履修条件・関連する科目・注意事項 Ability to speak and discuss accounting and bookkeeping in English will be required to attend this course. This course is recommended for students who have finished studying Introductory Accounting. You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor.	

授業科目名	管理会計特論（2単位） Advanced Course of Management Accounting	開講時限	春学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	小沢 浩（大学院経済学研究科） Hiroshi OZAWA	office hour	木曜日 13:30-14:30（要予約：各 質問に対応） By appointment
<b>授業の目的</b> 管理会計の代表的なテキストであるロバート・サイモンズ著『戦略評価の経営学』を輪読して、管理会計についての知識の獲得と応用能力の養成を目的とします。This course aims to enhance the understanding of research topics and to acquire applicable abilities of management accounting, using <i>Performance Measurement &amp; Control System for Implementing Strategy</i> (by Robert Simons), which is a typical textbook.			
<b>到達目標</b> マネジメント・コントロールの概念と4種類の方法についての知識を身につけます。			

#### 授業の構成

1	イントロダクション
2	第1章 経営が抱えるジレンマ
3	第2章 戦略成功の基本条件
4	第3章 実行体制づくり
5	第4章 業績評価と統制のための情報活用
6	第5章 利益計画の作成
7	第6章 戦略利益の評価
8	第7章 資産配分システムの設計
9	第8章 業績と市場の連動
10	第9章 バランス・スコアカードの構築
11	第10章 診断型統制システムと対話型統制システム
12	第11章 業績目標とインセンティブの連携
13	第12章 戦略リスクの認識
14	第13章 戦略リスクの管理
15	第14章 戦略実行のための統制レバー

<b>成績評価の方法と基準</b> 事前レポート（50%）、授業への出席と発表(30%)、議論への参加態度(20%)で評価します。 内容の要約、疑問点の提示、自身の感想が記載されていることを合格の基準とします。 履修取り下げ制度を採用しません。30%以上出席がない場合は「欠席」とします。
<b>授業時間外学習の指示</b> 授業で取り扱う箇所について、必ず予習をして、事前にレポートを提出してください。 事前レポートの提出がない場合、授業への出席を認めません。
<b>教科書・参考書</b> ロバート・サイモンズ著『戦略評価の経営学』ダイヤモンド社。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修する場合は、必ず、初回の授業に出席すること。 「管理会計」「経営分析」の単位を修得済みであること。

授業科目名	監査特論（2単位） Advanced Course of Auditing	開講時限	秋学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹（大学院経済学研究科） SEMBA, Hu Dan	office hour	講義後 （予めメールでの質問を推奨）
<b>授業の目的</b> 本講義では、「監査」研究・実務において重要な概念である「監査の質」に焦点を合わせ、その概念や統計学的アプローチを用いた場合の日本市場の実態などの研究成果を受講者と一緒に確認する。「監査」領域や「会計学」領域における統計的研究手法に馴染んでもらい、経済学・経営学の一角を占める監査の領域の知識やリーダーとしての資質を身につけ、現代の経済社会が直面する諸監査領域の課題に挑戦し、解決できる力を育むことを目的としている。This lecture is designed as to let participants understand/think deeply the important concept: audit quality, and is expected to help participants have solutions/ the ways to find solutions for the future challenges in practical modern economic social.			
<b>到達目標</b> （授業終了時に学生は、）監査の意義や「監査の質」に関わる論点について、知識が備えられ、パブリックに、それをプレゼンテーションできる。			

#### 授業の構成

1	イントロ
2	「監査の質」の概念
3	英国 FRC による監査の質
4	IAASB による監査の質
5	米国 PCAOB による監査の質
6	監査の質の評価フレームワークと監査領域における重要概念との関係
7	監査の質のアカデミック実践的測定
8	ビッグデータと会計監査（仮題）（外部講師による）
9	監査の信頼性回復に向けて（仮題）（外部講師による）
10	監査の質の提供側のインセンティブ・能力と監査の質
11	監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査法人の規模と監査の質
12	監査の質の提供側の能力である業種特化と監査の質
13	監査の質の提供側のインセンティブと市場の反応：オリンパス事件からの証拠
14	監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査報酬と監査の質
15	総括

<b>成績評価の方法と基準</b> 出席の状況（30%ぐらい）、プレゼンテーションや議論に関わる度合いなど講義への貢献度（45%ぐらい）およびレポート（25%ぐらい）で評価する。それぞれについて C または C- 評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を適用せず、本講義ではレポートを提出しなかった者は、「欠席」とする。講義中の内容についての適切にプレゼンテーション・解説できること、講義中の内容あるいは講義中指定の内容に関するコンテンツを適切に説明でき・考察できることを合格の基準とする。
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に教科書等の指定箇所を読んでおくこと。
<b>教科書・参考書</b> 『グローバル時代における監査の質の探究』仙場胡丹著、千倉書房、2016 年。
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 1. <b>教科書が必要</b> であるので、原則購入のこと。2. 履修したい場合、 <b>初回は必ず出席</b> すること。3. 本講義を受講するにあたり、会計学に関する基礎知識が必要である。4. 講義を進めるため、 <a href="http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/">http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/</a> を利用することがある。

授業科目名	経営分析特論（2単位） Advanced Course of Business Analysis	開講時限	春学期 火曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	角ヶ谷 典幸（大学院経済学研究科） Noriyuki TSUNOGAYA	office hour	火曜日 12:00-13:00（要予約） 質問がある場合も同上
<b>授業の目的</b> この講義では、経営分析に必要な考え方と解法を身につけるため、財務諸表と企業価値評価の理解を深めることを目的とする。 The purpose of this course is to enhance research ability in implementing a business analysis using financial statements and valuation techniques.			
<b>到達目標</b> 授業終了時に、学生が自ら実際に公表されている（内外企業の）財務報告書を手し、経営分析できるようにすること。			

授業の構成

1	Introduction to Course
2	A Framework for Business Analysis and Valuation Using Financial Statements
3	Communication and Governance
4	Accounting Overview: Conceptual Framework
5	Accounting Overview: Financial Statements
6	Statement of Cash Flows
7	Overview of Accounting Analysis: Financial Statements
8	Summary of the First Half
9	Implementing Business Analysis
10	Implementing Business Analysis: ROE Framework
11	Implementing Business Analysis: Profitability, Efficiency
12	Implementing Business Analysis: Leverage, Growth
13	Case: Business Analysis
14	Summary of the Second Half
15	Summary
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義への貢献（80%）および試験（20%）の合計点で評価する。 講義への貢献については、授業中の報告内容および質問した事項に対して回答できるか否かを基準とする。 また、試験については、授業中に解説し議論した知識や内容について正しく理解していることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は適用しない。試験を受けない者は「欠席」とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回の授業前に講義資料の指定箇所を読んでおくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 講義資料は、NUCT に掲載する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 経営分析の履修が望ましい。	

授業科目名	国際会計特論（2単位） Advanced Course of International Accounting	開講時限	秋学期 金曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） Akihiro NOGUCHI アーマドバ・メーリバン（大学院経済学研究科） Ahmadova Mehriban	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
<b>Course Aims</b> This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand international aspects of accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
<b>Course Objectives</b> The goals of this course are to ・be able to understand and explain the country uniqueness (including legal aspects) of accounting policy using Japan as an example. ・be able to understand and explain some advanced contents of financial accounting such as consolidated financial statements.			

授業の構成

1	Introduction
2	History of Japanese Accounting
3	Corporate Disclosure in Japan: Overview
4	Chapter 11 Financial Reporting in Japan
5	Corporate Disclosure in Japan: Auditing
6	Stated Capital
7	Distributable Amount
8	Japanese GAAP and JMIS
9	Chapter 2: Accounting for Business Combinations
10	Chapter 3: Consolidated Financial Statements-Date of Acquisition
11	Chapter 4: Consolidated Financial Statements After Acquisition
12	Chapter 5: Allocation and Depreciation of Differences Between Implied and Book Values
13	Chapter 11: International Financial Reporting Standards
14	Presentation of essay
15	Summary
<b>成績評価の方法と基準</b> Your overall grade in the class will be decided based on the following: Test and Quizzes in NUCT (30%), Presentation (40%), Essay (30%). The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not submitting essay will be graded as ‘Absent’.	
<b>授業時間外学習の指示</b> You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues.	

<b>教科書・参考書</b> Christopher Nobes & Robert B. Parker, Comparative International Accounting, Pearson Education Limited; 13th edition, ISBN-13: 978-1292081908 Debra C. Jeter & Paul K. Chaney, Advance Accounting, Wiley; 7th edition, ISBN 978-1-119-37325-4 Carsten Gerner-beuerle & Michael Schillig, Comparative Company Law, Oxford University Press, ISBN-13: 978-0199572205
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> Ability to speak and discuss accounting and bookkeeping in English will be required to attend this course. This course is recommended for students who have finished studying Introductory Accounting and Financial Accounting (or Intermediate Accounting). You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor.

<b>授業科目名</b>	経営情報特論（2単位） Advanced Course of Management Information	<b>開講時限</b>	春学期 月曜日5時限
<b>科目区分</b>	専門系科目 経営学科専門科目	<b>配当年次</b>	3・4年
<b>担当教員名</b>	樋野 励（大学院経済学研究科） Rei HINO	<b>office hour</b>	講義終了後、適宜受け付ける。
<b>授業の目的</b> 経営活動を行う上で、情報の入手と活用方法について学ぶ。本授業では、複数の代替案が存在する課題について、状況と目的にあわせた意思決定手法を数理的な視点から習得することで、自主的探究心の育成を行う。This course deals with the acquisition and the application in order to enhance applicable ability for management on the production. The method based on the mathematical approach and their applications are introduced in order to choose one of solutions for production management.			
<b>到達目標</b> ・最適化問題の構成要件と解法をわかりやすく説明できる			

授業の構成

1	Information and the role on production management: 経営活動と情報の役割
2	Decision making and mathematical programming: 意思決定と数理計画法
3	Linear programming(1): 線形計画法（1）
4	Linear programming(2): 線形計画法（2）
5	Linear programming(3): 線形計画法（3）
6	An application of linear programming(1): 線計画法の応用（1）
7	An application of linear programming(2): 線計画法の応用（2）
8	Mixed integer programming(1): 混合整数線形計画法（1）
9	Mixed integer programming(2): 混合整数線形計画法（2）
10	Optimization solvers(1): 最適化ソルバー（1）
11	Optimization solvers(2): 最適化ソルバー（2）
12	task assignments: 仕事割付問題
13	shortest path problem and process planning: 最短経路問題と工程計画
14	scheduling problem: ジョブショップスケジューリング
15	Summary: 総括
<b>成績評価の方法と基準</b> ・レポート（85%）、出席（15%）で評価する。なお、履修取り下げ制度を採用しない。レポートの提出が半分に満たない場合は「欠席」とする。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 授業後の復習を毎回行うこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教材用プリンタを配布し、授業の進捗に応じて参考書を紹介する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 線形代数の基礎を理解していることが望ましい。	



授業科目名	経済数学 A（2 単位） Mathematics for Economics A	開 講 時 限	春学期 金曜日 3 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	1 年
担当教員名	立石 寛（大学院経済学研究科） Hiroshi TATEISHI	office hour	金曜日 5 時限 質問には個別に対応します。
授業の目的 この講義では経済学の勉強にあたり必要となる基本的な数学事項について習得することを通じて、経済学の理解に資すると共に、経済学において執り行われる数学的な分析の基本的な作法について学ぶことを目的とする。 The aim of this lecture is to study the basic mathematics which is used in economics.			
到達目標 授業終了時に学生は、基本的な経済学文献に現れる数学を読み解くことができると共に、簡単な数学を用いた経済分析ができる。			

授業の構成

1	はじめに
2	数とは
3	関数
4	連続関数
5	1 変数関数の微分
6	テイラー展開
7	多変数関数
8	点列とノルム
9	多変数関数の微分
10	高階の微分
11	極値問題
12	最適のための一階の必要条件
13	制約付きの最適化問題
14	Lagrange の未定乗数法
15	Lagrange の未定乗数法：二階の十分条件
成績評価の方法と基準 期末試験で評価する。それぞれについて C または C- 評定以上を合格要件とする。数学についての適切な理解及び経済学に現れる数学事項を適切に読み解くことができることを合格の基準とする。	
履修取下げ制度は採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 必要に応じて授業中に指示をする。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	経済数学 B（2 単位） Mathematics for Economics B	開 講 時 限	春学期 水曜日 2 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	1 年
担当教員名	岡谷 良二（愛知学院大学経済学部） Ryoji Okatani	office hour	授業後に質問の時間を設ける。
授業の目的 この授業の目的は、経済学や経営学で必要とされる数学のうち、線形代数と呼ばれるものの基本的な内容を修得することである。  The purpose of this lecture is learning introductory linear algebra, which needs to study economics or management.			
到達目標 ・行列や行列式の理論の基本を習得し、それらを用いた計算ができること。 ・ベクトルとはどういうものかを知り、ベクトルの計算ができるようになること。 ・線形空間とはどういうものかを知り、ベクトルの性質を理解すること。 ・ベクトルと行列の関係から、連立方程式を解けるようになること。			

授業の構成

1	経済学と線形代数
2	行列の定義とその計算 1：行列とは。および和とスカラー倍
3	行列の定義とその計算 2：行列の積
4	行列の標準形と連立一次方程式 1：rref と基本変形
5	行列の標準形と連立一次方程式 2：連立方程式の解法
6	逆行列：定義と性質
7	逆行列：掃き出し法による計算
8	ベクトルの一次独立性、空間の次元
9	空間のベクトル
10	行列式 1：アイデアと定義
11	行列式 2：2 次、3 次正行列の行列式
12	一般の行列式の導出、行列式の性質
13	一般の行列式の余因子展開、クラメル公式
14	予備日
15	まとめ
成績評価の方法と基準 小テスト（3 回、30%）、期末試験（70%）によって測られる学習到達度の観点から評価する。 履修取下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 講義ノートを用いた復習と授業中に出す練習問題を解きなおすこと。	
教科書・参考書 講義ノートを配布する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	



授業科目名	統計解析（2単位） Statistical Methods and Applications	開講時限	春学期 水曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	根本 二郎（大学院経済学研究科） Jiro NEMOTO	office hour	質問は毎回の講義終了時に受付ける他、メールで予約すること。
<b>授業の目的</b> この講義は統計学の初等的技法の基礎とその応用能力を身につけることを目的とする。確率変数の考え方に基づいて母集団と標本の関係を理解し、1変量の場合の初等的な統計的推測の方法を修得する。 This course is aimed at learning elementary statistical skills with their theoretical foundation. We learn methods of the univariate statistical inference.			
<b>到達目標</b> ・標本と母集団の関係と社会統計における標本抽出の問題点を理解する。 ・平均、分散など標本の代表値の見方・使い方と計算方法を修得する。 ・確率変数の考え方と取扱の方法を学び、初等的な確率分布の場合に確率変数の期待値と分散が計算でき、期待値と分散の公式を正しく使うことができる。 ・点推定量の性質を理解し、確率変数の分布の性質から望ましい推定量を判定できる。 ・区間推定の理論と計算方法を理解し、実際の標本データから母平均の信頼区間を構成できる。 ・仮説検定の理論と計算方法を理解し、実際の標本データから母平均に関する仮説検定を行うことができる。 ・正規分布の役割について理解する。 ・利用可能な情報量と統計的推測のパワーの関係について、初等的な理解を得る。			

#### 授業の構成

1	統計的推測の考え方
2	母集団と標本（1）：データとしての標本
3	標本分布（1）：度数分布
4	標本分布（2）：代表値（標本平均、標本分散）
5	標本分布（3）：チェビシェフの不等式
6	母集団：無限母集団と母集団の代表値（母平均、母分散）
7	母集団と標本（2）：確率変数としての標本
8	確率変数と確率分布（1）：連続型と離散型
9	確率変数と確率分布（2）：期待値と分散に関する公式
10	点推定：不偏性、有効性、一致性と大数法則
11	正規分布と中心極限定理
12	区間推定：母平均の区間推定
13	検定（1）：母平均の検定
14	検定（2）：仮説の設定、両側検定と片側検定
15	検定（3）：有意水準と検定力（第1種のエラーと第2種のエラー）

#### 成績評価の方法と基準

成績評価は期末試験による。期末試験では、標本に関する基本的理解、確率変数の期待値と分散に関する基本的な計算法の理解、母平均に関する区間推定と仮説検定の公式の使用法の理解が合格の基準となる。履修取り下げ制度は適用せず、期末試験を受験しなかったものを取下げとみなす。

#### 授業時間外学習の指示

講義の際に復習用の練習問題を配布するので各自取り組むこと。練習問題の解答は原則として問題配布の次の週の講義で配布する。

教科書：木下宗七編「入門統計学」（新版）有斐閣

参考書：官川公男「基本統計学」有斐閣、森棟公夫「統計学入門」新世社、  
倉田博史・星野崇宏「入門統計解析」東洋経済新報社  
久保川達也・国友直人「統計学」東京大学出版会

#### 履修条件・関連する科目・注意事項

高等学校数学ⅡB程度の数学の知識を前提にする。なお、この講義の内容の多くは数学B「確率分布と統計的推測」の内容と重なる。数学Bの教科書を手元において適宜参照することを推奨する。

授業科目名	経済発展（2単位） Economic Development	開講時限	春学期 木曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	萬行 英二（大学院経済学研究科附属国際 経済政策研究センター） Eiji MANGYO	office hour	By appointment. Please bring questions to a meeting set by appointment.
<b>授業の目的</b> This course enhances Applicable Ability by applying basic micro and macro theoretical models to issues particularly important for developing countries.（本コースは、基礎のミクロ・マクロ経済学で履修した理論モデルを、開発途上国にとって重要な問題に応用し、学生の応用能力の向上を目標とする。）			
<b>到達目標</b> Students are expected to understand (1) how to apply micro and macro theoretical models to issues particularly important for developing countries and (2) how to interpret implications derived from (1).（本コース終了時に学生は、開発途上国にとって重要な経済問題について経済学的分析の方法や結果を理解することができる。）			

#### 授業の構成

1	Introduction: Preview of selected topics covered in this course（イントロ：本コースで扱うトピックの簡単な紹介）
2	Land issues – Tenancy（土地に係る問題 – 借地）
3	Credit issues – Rural financial institutions 1（信用供与に係る問題 – 農村地における金融制度・組織・慣行 1）
4	Credit issues – Rural financial institutions 2（信用供与に係る問題 – 農村地における金融制度・組織・慣行 2）
5	Credit issues – Microfinance（信用供与に係る問題 – マイクロ・ファイナンス）
6	Risk coping and consumption smoothing 1（リスク対処と消費平準化 1）
7	Risk coping and consumption smoothing 2（リスク対処と消費平準化 2）
8	Insurance tests – Empirical studies on village insurance（保険テスト – 実証論文の紹介）
9	Intra-household economics（家計内資源配分）
10	Labor issues – Migration（労働に係る問題 – 労働移転）
11	Economic growth 1（経済成長 1）
12	Economic growth 2（経済成長 2）
13	New growth theories（新経済成長理論）
14	Complementarities in development（開発における補完）
15	Wrap up and evaluation（まとめと評価）

#### 成績評価の方法と基準

Final Exam (100%) is used to measure the level of understanding on the concepts covered in the course. To pass this course, students need to have decent level of understanding about the theoretical models and related issues covered in this course. If students do not take the final exam, their final grades are “Absent.”（学習到達度を測る目的で、期末試験：比重100%を行う。合格要件は、本コースで扱った理論モデルとその関連事項についての基本的理解とする。履修取り下げ制度を採用しない。）

#### 授業時間外学習の指示

Students are expected to (1) complete required reading specified in the course syllabus and (2) answer key questions provided through the course website（シラバスに指定された必読文献を読むこととコース・ウェブサイト上のkey questionsに答えること。）

#### 教科書・参考書

Debraj, Ray. Development Economics. 1998. Princeton University Press.

Other reading materials are listed in the course syllabus to be distributed in the first lecture.（講義で議論する文献は講義初日に配布するシラバスにリストされている。）

#### 履修条件・関連する科目・注意事項

Prerequisites: Basic microeconomics, Basic macroeconomics, Basic statistics, Introductory econometrics. This course will be taught in English.

授業科目名	情報処理（2単位） Information Processing	開 講 時 限	秋学期 火曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	3・4 年
担当教員名	中野 牧子（大学院環境学研究科） Makiko NAKANO	office hour	講義終了後 またはメール等で別途日程調整

**授業の目的**  
 この講義では、Excel 及び R を用いて統計学・計量経済学の基本的な推定方法を学ぶことを通して、現代の経済社会が直面する課題を分析するための入門的な知識の一部を身に付け、自主的探究力を育成することを目的とします。授業前半は Excel、後半は R を使用する予定です。

The aim of this course is to help students acquire the ability of conducting basic data analysis using Excel and R. This course is related to basic statistics and econometrics that are the parts of the introductory knowledge needed to analyze the issues in our society.

**到達目標**  
 授業終了時には学生は、Excel と R を用いた基本的な分析が行えるようになることを目指します。授業では以下の内容を扱いますが順番は前後することがあります。

## 授業の構成

1	イントロダクション
2	統計学の復習
3	記述統計 (1)
4	記述統計 (2)
5	R の使い方の基本
6	最小 2 乗法 (1)
7	最小 2 乗法 (2)
8	最小 2 乗法 (3)
9	不均一分散 (1)
10	不均一分散 (2)
11	系列相関 (1)
12	系列相関 (2)
13	操作変数法 (1)
14	操作変数法 (2)
15	まとめ

**成績評価の方法と基準**

成績は中間レポート（10％）と期末レポート（90％）で評価します。中間レポートと期末レポートの合計において C または C- 評定以上を合格要件とします。授業で学習した内容を正しく理解していることを合格の基準とします。

履修取り下げ制度は採用しません。期末レポートを提出しない場合は「欠席」として扱います。

**授業時間外学習の指示**

この授業はソフトの使い方の説明に時間を割くため、統計学・計量経済学に関する理論的な説明には多くの時間を割きません。統計学・計量経済学に関する予備知識があると、授業がより理解しやすいです。予備知識が不足する場合には、適宜紹介する参考書等で復習をしてください。

**教科書・参考書**

教科書は使用せず、資料を配布します。参考書は適宜紹介します。

**履修条件・関連する科目・注意事項**

受講者数の上限は 100 人です。受講希望者が 100 人を超える場合、抽選を実施します。

授業科目名	日本経済論 (2単位) Japanese Economy	開講時限	秋学期 火曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	水谷 研治 (客員教授) Kenji MIZUTANI	office hour	講義後
<p><b>授業の目的</b></p> <p>自主的探求力を育成する。具体的には身近なニュースや経済の仕組みに焦点を当て、それらが理解できるように、必要とされる経済の基礎知識を体系的に提供する。</p> <p><b>Course Aim and Objectives</b></p> <p>This course enhances Research Ability in investigate short term and long term movements of the Japanese Economy.</p>			
<p><b>到達目標</b></p> <p>現実の世界や日本の経済の動きを見る力を身につけていただく。そのうえで将来の経済情勢を予想し、対応が考えられるようにする。</p>			

## 授業の構成

1	講義の概要	目的	生きた経済	経済の常識	ドル円相場	経歴の紹介	計画と要望
2	経済の見方	経済の捕まえ方	需要と供給	個と全体	4 大部門	国内総生産	
3	人と家計	働くことの意味	収入と支出	貯蓄と借金	借金地獄		
4	企業と経営	仕入、製造、販売	人、物、金	企業の目的と利益			
5	国の財政	歳入と歳出	赤字と借金	タ張市より悪い国家財政	財政改革の影響		
6	国際収支	輸出と輸入	為替相場	貿易収支と経常収支			
7	海外の経済	アメリカの貿易赤字	ヨーロッパの行方	中国経済の行方	資源国		
8	金融と資金需給	経済と金融	景気と資金需要	資金の供給	収益性と危険性	借金の限界	
9	デフレとインフレ	需要と供給と価格	物価指数	名目と実質	生産の条件		
10	経済政策の効果	金融政策の前提	財政政策の効果	赤字財政の罍			
11	経済の構造変化	規制と自由化	1 次、2 次、3 次産業	もの作りの重要性			
12	健康経済学	健康の維持増進	少子高齢化	医療と介護	費用と公共支援	保険と予防	
13	日本経済の問題点	供給過剰	産業の空洞化	少子高齢化	財政破綻		
14	日本経済の見通し	インフレへの転換	永遠の衰退へ	大改革による落ち込み			
15	試験						
成績評価の方法と基準							
期末試験。日常点を加味することがある。履修取り下げ制度を採用しない。							
授業時間外学習の指示							
大きな経済の動きに注目し、将来どのような影響を及ぼすかを考える習慣をつけること。							
教科書・参考書							
「財政改革の衝撃…待つも地獄、進むも地獄の日本経済」水谷研治著 東洋経済新報社							
履修条件・関連する科目・注意事項							
自分の人生へどのように影響するかという観点から社会の大きな動きを見る習慣をつけて欲しい。							

授業科目名	大学生のための職業論（2単位） Job Training for University Students	開講時限	春学期 水曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	根本 二郎（大学院経済学研究科） Jiro NEMOTO	office hour	質問は毎回の講義終了時に受ける他、メールで予約すること。
<b>授業の目的</b> 本講義はキタン会（経済学部同窓会）の協力により、大学、企業、本学 OB から招聘した講師による連続講義で構成される。受講者は、講義やワークを通じて自主的探求力を培うとともに、専門教育を学ぶ意味と就職して働く意義を問い直し社会での「働き方、生き方」について理解を深めることにより、社会が直面する諸課題を解決する人材となることが期待される。 This course introduces participants to recognition of work and occupation to support career development. The course is composed of a series of lectures provided by leading professionals of various fields. It is expected that this course helps participants become a person performing as a leader to solve difficulties of society.			
<b>到達目標</b> ・各自自身の将来のキャリアを考える契機とする。 ・各自の勤労観ないし職業観を彫琢する。 ・各自のロールモデルまたはロールモデル候補を見出す。 ・働くために必要なスキルとして、コミュニケーション力とメンタルヘルスマネジメントを向上させるための知識を身につける。 ・就職活動で活用できる経済・経営の知識を身につける。			

授業の構成

1	講義全体のガイダンス
2	日本経済から見る職業論
3	人的資源管理から見る職業論
4	企業から見た人材 1
5	企業から見た人材 2
6	企業で働く 1
7	企業で働く 2
8	職場のメンタルヘルス
9	インターンシップの使い方
10	起業 1
11	起業 2
12	専門職業人として働く
13	“仕事”と“働く”ということ 1
14	“仕事”と“働く”ということ 2
15	“仕事”と“働く”ということ 3
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート 3 回（それぞれウェイト 1/3）によって評価する。レポートは講義のうち一つを選び講義内容の要約と、講義に基づき職業観またはキャリアについて考えたことをまとめる。講義に即して自身で考えたオリジナルな内容を含んでいるかどうかを合格の基準とする。履修取り下げ制度は適用せず、レポートを 3 回提出しなかったものを取下げとみなす。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 毎回、講義内容に即して職業観またはキャリアについて自身で考えたことをまとめておくこと。	
<b>教科書・参考書</b> 必要に応じて講師が授業中に指示する。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修条件は要さない。講師の都合により講義の順番は変更することがある。	

授業科目名	（特殊講義）グローバル・ファイナンス・マネジメント（2単位） Special Studies (Global Finance Management)	開講時限	春学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	佐野 良雄（非常勤講師） Yoshio Sano	office hour	火・木午前中 am Tue/Thu e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的： グローバル資本主義経済の根底を支える金融の役割は極めて重要である。この講義はグローバル人材育成プログラムの一環として、グローバル・ファイナンスの概要をそのメイン・プレイヤーがどのような役割を果たしているのかを理解し、その役割を学ぶ。講義には日本銀行、金融機関、企業からの派遣講師を招聘する。この講義は学生の自主的探究力育成を目的とする Purpose of Lecture: This lecture aims at perspective understanding of global financial market and operations of main players including BOJ and other financial institutions. Lecturers are invited among top-notch players in the financial industry in Japan.			
到達目標： 講義終了時に学生は、将来社会人として必要な経済やファイナンスの基礎知識を習得し、自らのキャリア形成の土台とすることができる。			

授業内容

1	イントロダクション	大学	4月16日
2	銀行業務 1	三井住友銀行	4月23日
3	銀行業務 2	三井住友銀行	4月30日
4	銀行業務 3	三井住友銀行	5月7日
5	中央銀行業務 1	日本銀行	5月14日
6	中央銀行業務 2	日本銀行	5月21日
7	証券業務 1	野村證券	5月28日
8	証券業務 2	野村證券	6月4日
9	証券業務 3	野村證券	6月18日
10	企業活動と金融	日本政策投資銀行	6月25日
11	プロジェクト・ファイナンス入門	三井物産	7月2日
12	地方銀行業務	名古屋銀行	7月9日
13	信託銀行業務	三井信託銀行	7月16日
14	特別講義または課外活動	大学	未定
15	まとめと評価	大学	未定
成績評価の方法と基準： 成績評価は、講義内容に関する複数回のレポートおよびテスト、英語テキストに基づく期末試験、出席をポイントに換算して成績を付与し、C 評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しない			
授業時間外学習の指示： 日経新聞購読を推奨する。Web による小テストを実施する			
教科書・参考書： 講義は原則として配布資料（または Website よりダウンロード）により行う。英語テキストは『英語で分かるはじめての財務諸表 40 日間トレーニング』 初回講義で英語テキスト割引購入証を配布する			
履修条件・注意事項： 講義は原則として、ビジネスの第一線でご活躍の方に講師をお願いする 遅刻しないこと 講義中の私語は慎み、講義目的以外の携帯電話使用厳禁 講義開始 5 分前には着席のこと			

授業科目名	(特殊講義) グローバル・マニュファクチャリング・マネジメント (2 単位) Special Studies (Global Manufacturing Management)	開 講 時 限	春学期 火曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科) Rei HINO 佐野 良雄 (非常勤講師) Yoshio SANO	office hour	火・木午前中 am Tue/Thu e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的: 経済のグローバル化に伴う日本企業の経営課題と対応について、様々な製造業の生産現場運営に関わる基礎知識を中心に実践的に学ぶ。本講義はグローバル人材育成プログラムの一環として、主に企業からの派遣講師により行われる。この講義では実践学習を通して、自主的探究力を育成することを目的とする Purpose of Lecture: This lecture aims at perspective understanding of Japanese manufacturing industries. Lecturers are invited among top-notch companies in japan. 到達目標: 講義終了時に学生は、日本における製造業の概観を把握し、自らのキャリア形成の基礎とすることができる			

授業内容

1	イントロダクション	大学	4 月 14 日
2	海外工場の経営	デンソー	4 月 21 日
3	グローバル企業におけるキャリア・パス	デンソー	5 月 28 日
4	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会 (1)	トヨタ自動車	5 月 12 日
5	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会 (2)	トヨタ自動車	5 月 19 日
6	機械設備生産工場の運営 (1)	新東工業	5 月 26 日
7	機械設備生産工場の運営 (2)	新東工業	6 月 2 日
8	ICT 産業の概要	富士通	6 月 9 日
9	ICT 産業のグローバル経営と戦略	富士通	6 月 16 日
10	素材産業の概要とグローバル経営 (1)	三井化学	6 月 23 日
11	素材産業の概要とグローバル経営 (2)	大同特殊鋼	6 月 30 日
12	素材産業の概要とグローバル経営 (3)	日本ガイシ	7 月 7 日
13	電機・エレクトロニクス産業の概要とグローバル経営	三菱電機	7 月 14 日
14	特別講義	大学	7 月 21 日
15	特別講義または課外活動	大学	未定
成績評価方法: 成績評価は、講義内容に関する複数回のレポート、ケーススタディの期末レポート) および出席をポイントに換算して成績を付与し、C 評定以上を合格要件とする。履修取り下げ制度を採用しない			
予備学習の指示: 日経新聞購読を推奨する			
教科書・参考書: 講義は原則として配布資料 (または Website よりダウンロード) により行う			
履修条件・注意事項: 講義は原則として、ビジネスや行政の第一線でご活躍の方に講師をお願いしている。遅刻しないこと 講義中の私語は慎み、講義目的以外の携帯電話使用厳禁。講義開始 5 分前には着席のこと			

授業科目名	(特殊講義) グローバル・コーポレート・マネジメント (2 単位) Special Studies (Global Corporate Management)	開 講 時 限	秋学期 月曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年
担当教員名	宮崎 正也 (大学院経済学研究科) Masaya MIYAZAKI 佐野 良雄 (非常勤講師) Yoshio SANO	office hour	月・水午前中 am Mon/Wed e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的: 企業をめぐる環境は常に変化し世界で競争にさらされている。この動きの激しいビジネス世界において、各企業はどのような戦略の下に企業を経営しているのか。総合商社、流通業、物流 (ロジスティクス)、電気機器メーカー、テレコム産業等代表的な日本企業や中央官庁の現状と将来を探索。この講義では企業や中央官庁から第一線で活躍する講師を招く。実践学習を通して、自主的探究力を育成することを目的とする。 Purpose of Lecture: This lecture aims at perspective understanding of how companies make corporate policies and strategies and how they can put them in concrete activities. Lecturers are invited among blue-chip companies from trading companies, department stores, insurance companies and telecom industries. Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism is among them. 到達目標: 講義終了時に学生は、企業理念や戦略がどのように策定され、企業活動に反映されているのかという基礎知識を習得し、将来のキャリア形成に資することができる。			

授業内容

1	イントロダクション	大学	10 月 5 日
2	グローバル企業の経営	総合商社	三井物産 10 月 12 日
3	グローバル企業の戦略	総合商社	三井物産 10 月 19 日
4	グローバル企業の経営	総合商社	豊田通商 10 月 26 日
5	グローバル企業の戦略	総合商社	豊田通商 11 月 2 日
6	グローバル企業の経営と戦略	百貨店	松坂屋 11 月 9 日
7	グローバル物流の経営と戦略	損害保険	損保ジャパン日本興亜 11 月 16 日
8	グローバル物流と企業の役割	電気機器	ブラザー工業 11 月 30 日
9	グローバル企業の経営と戦略	未定	- 12 月 7 日
10	グローバル企業の経営と戦略	物流	日本通運 12 月 14 日
11	グローバル物流に関する国の取組		国土交通省 12 月 21 日
12	グローバル企業の経営と戦略	テレコム (1)	NTT データ 1 月 18 日
13	グローバル企業の経営と戦略	テレコム (2)	NTT データ 1 月 25 日
14	特別講義または課外活動		未定
15	特別講義または課外活動		未定
成績評価方法: 成績評価は、講義内容に関する複数回のレポート、出席をポイントに換算して成績を付与し、C 評定以上を合格要件とする 履修取り下げ制度を採用しない			
予備学習の指示: 日経新聞購読を推奨する			
教科書・参考書: 講義は原則として配布資料 (または Website よりダウンロード) により行う			
履修条件・注意事項: 講義は原則として、ビジネスの第一線でご活躍の方に講師をお願いする。遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用厳禁 講義開始 5 分前には着席のこと			



授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ開発入門 (2単位): Special Studies (Leadership Development Basics)	開 講 時 限	春学期 水曜 4 限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年以上
担当教員名	松岡 洋佑 (イノベスト) Yosuke Matsuoka 土井 康裕 (大学院経済学研究科) Yasuhiro Doi	office hour	土井とメールで事前に日程調整 を行うこと
<b>講義の目的</b> 【日本語】 本授業では毎回の授業内で実施されるコミュニケーションスキル向上のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探求力、より具体的には、リーダーシップ能力の取得が目指される。ここで言うリーダーシップとは、上下関係にない相手を適切な方向に導く力を指す。グループ活動を支援するため、担当講師により、リーダーシップ論についての基礎知識に加え、論理思考・討議・フィードバックのスキルの教授が行われる。本スキルは、近年の企業採用担当者が重視するリーダーシップであると同時に、授業受講中の学生生活から活きるライフスキルである。 <b>本授業は、「アビームシステムズ株式会社」と産学連携を行って開講する。授業には、アビームシステムズ株式会社の社員が、グループ活動を進める上で基礎となる知見の解説やチームへのフィードバックやメンタリングを行うなど、サポート社員として複数回参加する。</b>  【英語】 This course aims to increase your leadership skills by having students engage in activities in groups. The leadership taught in this course is “leadership without authority”, the ability where you will need to influence others without giving orders. This ability is not only being focused during job hunting, but is an ability that can be used in your everyday life. To support your group activity, teachers will provide leadership lectures. Additionally, time will be taken for the following skills such as logical thinking, debate, feedback. This course is provided with cooperation from “Abeam Systems Ltd.”. Employees from the company will provide information to guide you with the course and give feedback to your presentations.			
<b>到達目標</b> ・最小三要素（目標共有・率先垂範・相互支援）を意識してリーダーシップをとれるようになる ・個々のリーダーシップのあり方を模索し、自分の持ち味を活かしたリーダーシップのあり方を理解し、実践できるようになる ・具体的経験とフィードバックというリーダーシップ開発の手法を理解し、自ら実践できるようになる ・討議の際に、傾聴や率直で建設的な意見表明、基本的なファシリテーションやタイムマネジメントができるようになる			

#### 授業内容

1	導入：授業のゴール説明とリーダーシップミニ体験
2	リーダーシップ基本概念の理解：世界標準のリーダーシップ
3	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力（1）
4	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力（2）
5	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック（1）
6	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック（2）
7	リーダーシップ発揮に必要なスキル：論理思考
8	リーダーシップ持論の構築

9	ミニプロジェクトキックオフ
10	プロジェクトへのフィードバック
11	プロジェクト成果発表
12	リーダーシップ持論の発表
13	リーダーシップ宣言とリーダーシップ開発プロセスの説明
14	(予備日)
15	(予備日)
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では2回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜（後述）に漏れた者についても同様である。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 各回の講義（特にディスカッション）のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。	
<b>教科書・参考書</b> 講義の前、あるいは講義に並行して、受講生にぜひ読んでいただきたい文献として、以下を挙げる。伊賀泰代（2012）『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他（2017）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版部。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b>	



授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ開発実践 (2単位): Special Studies (Leadership Development Advanced)	開 講 時 限	秋学期 水曜 4 限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年以上
担当教員名	松岡 洋佑 (イノベスト) Yosuke Matsuoka 土井 康裕 (大学院経済学研究科) Yasuhiro Doi	office hour	土井とメールで事前に日程調整を行うこと

#### 講義の目的

##### 【日本語】

本授業では毎回の授業内で実施されるコミュニケーションスキル向上のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探求力、より具体的には、リーダーシップ能力の取得が目指される。ここで言うリーダーシップとは、上下関係にない相手を適切な方向に導く力を指す。グループ活動を支援するため、担当講師により、リーダーシップ論やビジネス課題についての基礎知識に加え、論理思考・討議・フィードバック・調査分析・文書作成・プレゼンテーションのスキルの教授が行われる。本スキルは、近年の企業採用担当者が重視するリーダーシップであると同時に、授業受講中の学生生活から活きるライフスキルである。**本授業は、「アビームシステムズ株式会社」と産学連携を行って開講する。授業には、アビームシステムズ株式会社の社員が、プロジェクトを進める上で基礎となる知見の解説や最先端事例の紹介、プランへのフィードバックやチーム活動へのメンタリングを行うなど、サポート社員として複数回参加する。**

##### 【英語】

This course aims to increase your leadership skills by having students engage in activities in groups. The leadership taught in this course is “leadership without authority”, the ability where you will need to influence others without giving orders. This ability is not only being focused during job hunting, but is an ability that can be used in your everyday life. To support your group activity, teachers will provide leadership lectures, and basic business skills lectures. Additionally, time will be taken for the following skills such as logical thinking, debate, feedback, information gathering, writing, and presentation. This course is provided with cooperation from “Abeam Systems Ltd.”. Employees from the company will provide information to guide you with the course and give feedback to your presentations.

#### 到達目標

- ・最小三要素（目標共有・率先垂範・同僚支援）を意識して実践的なリーダーシップをとれるようになる
- ・「(特殊講義) リーダーシップ開発入門」を通じて養った個々のリーダーシップのあり方を外部の異なる環境で活かし、実践できるようになる
- ・専門性の高い領域で価値観や専門分野の異なるメンバーとチームを組み、相手の立場に立ち問題を捉え、高次の解決策をチームで共有かつ立案できるようになる
- ・1 人の社会人として率先して活動し、実現可能なプランをチームで立案することによって、実社会でも通用するビジネス視点やスキルを身につける

#### 授業内容

1	導入：クライアントと解決課題の告知・説明・チームビルディング
2	態度スキルのインプット：リーダーシップ
3	必要なスキルの指導：プロジェクトマネジメントにおける時間とタスクの管理
4	必要なスキルの指導：ビジネスプランの提案
5	必要なスキルの指導：仮説の構築・検証
6	必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築（1）

7	必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築（2）
8	中間プレゼンテーション
9	中間振り返り：プラン内容と発揮したリーダーシップへのフィードバック
10	プランのシミュレーション：論理・財務シミュレーション
11	最終発表への準備
12	最終プレゼンテーション
13	振り返り：チーム活動と個人活動の振り返り、改善計画の策定・共有
14	振り返り 2：リーダーシップ持論の再構築とリーダーシップ宣言
15	（予備日）

**成績評価の方法と基準** 平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では 2 回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜（後述）に漏れた者についても同様である。

**授業時間外学習の指示** 各回の講義（特にディスカッション）のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。

**教科書・参考書** 講義の前、あるいは講義に並行して、受講生にぜひ読んでいただきたい文献として、以下を挙げる。伊賀泰代（2012）『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他（2017）『リーダーシップの探求』 早稲田大学出版部。

**履修条件・関連する科目・注意事項** ディスカッション主体のこの講義では、履修者の上限を 50 名と定める。適宜選抜を行うため、履修を希望する者は、初回講義の際に示すミニ課題に対応すること。

授業科目名	(特殊講義) アセット・マネジメント概論 (2単位) Special Studies (Introduction to Asset Management)	開 講 時 限	秋学期 火曜日 5 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年
担当教員名	木村 彰吾 (大学院経済学研究科) Shogo KIMURA 峯岸 信哉 (中京大学経営学部) Shinya MINEGISHI	office hour	授業終了時に対応する Students can ask questions after class.
<b>授業の目的</b> 経済の成熟期を迎えた我が国において、新しい産業や雇用を創出するような成長分野への投資の重要性が増している。そこで鍵となるのが(長期)投資であるが、その資金の出し手としては年金等の機関投資家のみならず、個人も大きな役割を果たすことが期待されている。また、個人の人生設計においても、労働賃金の成長が鈍化するなかで、金融商品を活用した投資による資産形成の重要性が日々増している。 Japan is almost coming into the matured economy, and the investment in the new growth field becomes more important than ever. In this situation, long-term investment is crucial, and many types of founders, such as corporate investors and individual ones, are playing a significant role. Also, for individuals, asset management using financial products is increasingly important due to the stagnate labor income. 本講義は、当該分野での専門家を各回外部講師として招き、アセットマネジメント(資産運用)に関する基本的な知識から実務に関するまで、幅広いテーマで講義を行う。これを通じて、自主的探究力の育成を目指す。なお、本講義は、日本投資顧問業協会および投資信託協会からの支援によって開講される。 This course invites the experts of asset management as guest lecturers every week and discusses a wide range of topics from basic level to professional one. Through these lectures, it enhances the development of students' ability to spontaneously explore. In addition, this course is supported by the Japan Investment Advisers Association and the Investment Trusts Association, Japan.			
<b>到達目標</b> 「(授業終了時に学生は、)アセット・マネジメント(資産運用)業務に関しての最先端の幅広い知識を身につけることができる。」 At the end of this course, participants are expected to gain a wide-range and the leading-edge knowledge about asset management affairs.			

#### 授業の構成

1	アセット・マネジメントとは What is Asset Management?
2	投資信託 Investment Trusts
3	日本の年金制度とアセットアロケーション Pension system in Japan, and Asset Allocation
4	投資資産(株式・債券)のリスクとリターン Risk and Return of Investment Asset (Stock and Bond)
5	アセット・アロケーションと分散投資 Asset Allocation, and Diversified Investment
6	R E I T (不動産投資信託) REIT (Real Estate Investment Trust)
7	金融商品取引法とアセットマネジメント Financial Instruments and Exchange Act, and Asset Management
8	ヘッジファンド Hedge Fund

9	株主によるガバナンスと企業行動・企業価値 Governance by stockholders, and Corporate Activity, Corporate Value
10	自主規制とコード Self-Regulation and Code
11	株式市場の分析 Analysis of the Stock Market
12	金融デリバティブ取引 Financial Derivative Trading
13	エコノミスト・ストラテジストの業務 Affairs of Economist and Strategist
14	アセット・マネジメント・ビジネスの最先端(経営者が語る) Frontier of Asset Management Business (by a business manager)
15	まとめと評価 Brief Summary and Assessment
<b>成績評価の方法と基準</b>  定期試験で評価する。履修取り下げ制度を採用しないため、定期試験を受験しない者は「欠席」とする。 The final grade will be decided in the term-end exam. In the case of not-taking exam, "Absence" will be marked.	
<b>授業時間外学習の指示</b>  日頃から、日本経済新聞などの経済新聞を読むこと We highly recommend reading the economic press, on a regular basis, such as Nihon Keizai Shimbun.	
<b>教科書・参考書</b>  必要に応じて紹介する。 Will be introduced in the class, if needed.	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b>  履修条件は要さない。 Condition for the registration is not defined. 私語や携帯電話の使用を慎むこと。また、講義途中での退席は認めない。 Prohibiting chatting and using cell-phone during the class. Also, students are not allowed to leave a classroom during the lecture.	

授業科目名	(特殊講義)スタートアップ経営論(2単位)(IPO基礎講座) Special Studies (Start-up company management)	開講時限	秋学期 木曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	木村 彰吾(大学院経済学研究科) Shogo KIMURA	office hour	アポイントメントによる
授業の目的 GAFAに代表されるように、イノベーションを踏まえた起業が注目されており、スタートアップ企業が経済成長に寄与することも期待されている。この講義では、会社を起業(スタートアップ企業の設立)し、それを成長させるプロセスを通じて、経営学の知識を身につけ、リーダーとしての資質を身につけることを目的とする。より実践的な内容にするため、スタートアップ企業の経営者、スタートアップから株式上場を目指す(あるいは実現した)企業の経営者などを招聘し事例報告を行う。			
到達目標 ・起業のビジネスプランを構想できるようになる。 ・スタートアップ企業のマネジメントを理解できる			

授業の構成

1	イントロダクション
2	会社を起業するには
3	株式会社の基礎(会社の機関・株主総会)
4	スタートアップの起業(経営体験談1)
5	上場を目指すために(ショートレビュー)
6	スタートアップ企業の成長戦略
7	事業計画の作成
8	IPOサポート機関との関係
9	内部統制・会社の機関設計
10	上場申請書類および上場申請対応
11	上場会社に求められること(投資家との関係)
12	IPOにより変わるスタートアップ企業
13	ベンチャー企業(経営体験談2)
14	企業が求める人材
15	企業訪問
成績評価の方法と基準 ・出席40%、期末レポート60%で評価する。それぞれについてC判定以上を合格要件とする。出席については当該授業回で説明された考え方や用語などを正しく理解できていること(毎回アンケートにより確認する)、レポートについてはビジネスプランやスタートアップ企業のマネジメントについて授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。 ・履修取下げ制度は適用せず、期限までにレポートが提出されない場合、「欠席」とする。	
授業時間外学習の指示 事前に指示した企業などのHPを確認しておくこと	

授業科目名	(特殊講義)財務・金融行政実務(2単位) Special Studies (Public Financial Administration)	開講時限	秋学期 木曜日4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2~4年
担当教員名	齋川 浩司 (国際経済政策研究センター) Koji SAIKAWA	office hour	講義終了後又は随時予約
授業の目的 財政金融当局の行政官による所管行政についての講義を通じて、我が国経済が抱える政策課題及び行政課題についての自主的探求力を育成することを目的とします。 The purpose of this course is to develop the ability to voluntarily explore administrative issues facing Japan, through lectures by officials of MOF.			
到達目標 日本の経済・財政及び金融が抱える諸課題を理解し、課題解決に向けて探求し自己の意見を形成する。			

授業の構成

1	オリエンテーション、日本経済・財政の現状と課題	東海財務局
2	東海地域の経済—東海経済の特徴と今後の課題等	東海財務局
3	財政1—日本の税制—税制の現状と課題	財務省
4	財政2—日本の財政と私たちの暮らし	東海財務局
5	財政3—関税政策	財務省
6	財政4—国有財産—国有財産の概要、国有地の売却、身近な国有地	東海財務局
7	財政5—税務行政	名古屋国税局
8	財政6—税関行政—税関の役割—	名古屋税関
9	国際政策—国際金融政策等	財務省
10	金融1—金融リテラシー	金融庁
11	金融2—金融の役割と重要性、地域との関わり	東海財務局
12	金融3—金融機能の安定、預金者保護	東海財務局
13	金融4—金融商品分野の基礎知識・証券検査の実務	東海財務局
14	金融5—金融サービスと利用者保護	東海財務局
15	まとめ・評価	
成績評価の方法と基準 毎回提出する講義内容に関するアンケート課題(50%)と期末試験(50%)の成績で評価する。毎回のアンケート課題については授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを判定基準として評価し、これに期末試験を加えた総合点数がC評点以上を合格要件とする。履修取下げ制度を採用しない。		
授業時間外学習の指示 講義において時事問題に触れることもあるので、新聞等に目を通し、日頃から財政、金融及び経済への関心を深めておくこと。		
教科書・参考書 毎回、原則、レジュメをNUCTに事前配付するので、NUCT掲載の資料を持参すること(講師の都合でNUCTで事前配付しない場合は、講義時の資料配付、スライドの映写等により講義を行う。)		
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。		

授業科目名	(特殊講義) 金融リテラシー (イオン銀行寄付講義) (2 単位) Special Studies (Financial literacy)	開 講 時 限	春学期 木曜日 2 時限
科 目 区 分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2 年生
担当教員名	黒田隆 (イオン銀行取締役兼執行役員) 他 Takashi KURODA コーディネータ: 清水克俊 (大学院経済学研究科) Katsutoshi SHIMIZU	office hour	講義終了後
<b>授業の目的</b> 現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力 (お金に関する知識と判断力)」を身につけることは重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。 In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill. The goals of learning about financial literacy are as follows: ・ To understand the important things about life. ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions. This lecture is donated by AEON Bank,Ltd..			
<b>到達目標</b> 経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。 学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計 (ライフプラン) が作成できるようにする。			

#### 授業の構成

1	金融経済教育の重要性
2	人生とお金
3	お金を稼ぐ (職業選択・収支管理・社会保障制度)
4	お金と経済 (金融経済の環境変化とその対応方法)
5	ライフプランを描く① (ライフプランニング基礎)
6	ライフプランを描く② (キャッシュフロー分析演習)
7	お金を借りる① (クレジットローンについて)
8	お金を借りる② (住宅ローンの仕組み)
9	お金をふやす① (投資の意義)
10	お金をふやす② (投資の基本)
11	リスクに備える① (人生におけるリスク)
12	リスクに備える② (生活に潜むリスク)
13	トラブルに強くなる
14	ライフプランを描く③ (ライフプランに関する討議)
15	全体総括
<b>成績評価の方法と基準</b> ミニテスト (約 30%) および最終試験 (またはレポート) の点数の加重平均により、総合的に評価する。 上記の目的、到達目標、授業の構成の内容について、基本的な概念や用語を理解し、それらを用いて論述できることを加点の基準とする。履修取り下げ制度を採用する。	
<b>授業時間外学習の指示</b> 配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。	
<b>教科書・参考書</b> 教科書: 授業スライド等資料をダウンロードすること。	
<b>履修条件・関連する科目・注意事項</b> 履修制限が必要な場合は 2 年生を優先的に受講させる。	

授業科目名	(特殊講義) 国際ものづくり経済入門 1 (2 単位) Special Studies(Introduction to Economy and Management for Manufacturing Companies 1 )	開 講 時 限	通年集中
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	1 ~ 4 年生
担当教員名	土井 康裕 (大学院経済学研究科) DOI, Yasuhiro 志賀奈月美 (大学院経済学研究科) SHIGA, Natsumi	office hour	
講義の目的: 7 月中の 2 週間にわたり、ものづくりの拠点である名古屋、急速に発展しものづくりの拠点となりつつあるベトナム両国について、学生が交流することを通じて学び合う場を提供します。ベトナム外国貿易大学 (FTU) 会計・監査学部との JASSO 海外留学支援制度 (協定受入) のために開設する講義で、FTU への JASSO 海外留学支援制度 (協定派遣) に応募する学生は、本講義の履修が推奨されます。ものづくり経済に関する講義・工場見学・討論を通じて、自主的探求力を育成することを目的とします。FTU 学生向けのプログラムにつき、講義・討論はほぼすべて英語で実施されます。The purpose of this lecture is to provide opportunity for Foreign Trade University students to visit Nagoya based on JASSO Short Stay Program and have opportunity to discuss with Nagoya University students and visit factory of Japanese manufacturing company. Nagoya is the center of manufacturing industries, and Viet Nam is becoming a new manufacturing area in Asia. It is recommended for students who applied for JASSO Short Visit Program to FTU to attend this lecture. Most of the lectures/discussions will be done in English.			

#### 授業内容

1	Introduction
2	Lecture
3	Discussion <University students' life in Japan>
4	Factory Visit (1)
5	Factory Visit (2)
6	Company Visit (1)
7	Company Visit (2)
8	Joint Study Session (1)
9	Joint Study Session (2)
10	Basic Japanese (1)
11	Basic Japanese (2)
12	Basic Japanese (3)
13	Japanese Cultural Session (1)
14	Japanese Cultural Session (2)
15	Presentation of Field Study
成績評価の方法と基準 Attendance (50%) and essay (50%). "Absent" if you do not attend the class four times or more. 履修取り下げ制度を採用しません。4 回以上欠席すると「欠席」と評価します。	
授業時間外学習の指示 Read the website of Nagoya University Global HR Development Program.	
教科書・参考書 特になし	
履修条件・関連する科目・注意事項 Most of the classes are done in English for FTU student, therefore positive participation to the program is highly recommended. FTU 交換留学生向けに、講義および Discussion は英語で行うので、積極的にコミュニケーションを図ることが望まれます。	

授業科目名	(特殊講義) 国際ものづくり経済入門 2 (2 単位) Special Studies (Introduction to Economy and Management for Manufacturing Companies 2 )	開 講 時 限	通年集中
科 目 区 分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配 当 年 次	3～4 年
担当教員名	土井 康裕 (大学院経済学研究科) DOI, Yasuhiro 志賀奈月美 (大学院経済学研究科) SHIGA, Natsumi	office hour	
講義の目的：ものづくりの拠点である名古屋と、急速に発展しものづくりの拠点となりつつあるベトナムについて、学生が交流することを通じて学び合う場を提供します。11 月中に行われるベトナム外国貿易大学 (FTU) 会計・監査学部への JASSO 海外留学支援制度 (協定派遣) のために開設する講義であり、学生による論文発表会・討論・会社訪問・工場見学を通じて、自主的探求力を育成することを目的とします。講義の一部は英語で実施します。The purpose of this lecture is to provide opportunity for visiting Foreign Trade University (FTU) in Hanoi, Vietnam, based on JASSO Short Visit Program. Presentation of academic papers at the conference with FTU students will be the main part of this lecture, but the Program will also include opportunity to attend lectures at FTU, company and factory visits. A part of the lecture will be done in English			

授業内容

1	事前学習 (序論)	7 月頃
2	事前学習 (渡航準備手続)	
3	事前学習 (Lecture)	
4	事前学習 (論文作法とプレゼンテーション)	
5	事前学習 (論文選考)	
6	事前学習 (論文選考)	
7	事前学習 (発表練習)	
8	事前学習 (発表練習)	
9	FTU (Quang Ninh Campus) Joint Discussion	Quang Ninh 11 月中旬
10	FTU (Hanoi Campus) Students' Conference	Hanoi
11	FTU (Hanoi Campus) Students' Conference	Hanoi
12	Factory Visit	Haiphong
13	FTU (Hanoi Campus) Lecture	Hanoi
14	FTU (HCMC Campus) Joint Discussion	Ho Chi Ming City
15	成果報告会	12 月
成績評価の方法と基準 Attendance (50%) and paper presentation (50%). "Absent" if you fail to attend the class four times or more. 履修取り下げ制度を採用しません。4 回以上欠席すると「欠席」と評価します。授業時間外学習の指示 選抜された論文に関しては Hanoi における "Students' Conference" における英語のプレゼンテーション実施を必須とします。他の論文は「概要」提出を必須とします。Paper or abstract will be required for registration and full paper if accepted for presentation at the students' conference.		
教科書・参考書 特になし		
履修条件・関連する科目・注意事項 Discussion and presentations are done in English, therefore positive participation to the program is highly recommended. FTU との交換 Presentation・講義および討論は英語で行うので積極的にコミュニケーションを図ることが望まれます。		

授業科目名	職業指導 (2 単位) Career Guidance	開 講 時 限	春学期 火曜日 4 時限
科 目 区 分	専門系科目 経営学科関連専門科目	配 当 年 次	2・3・4 年
担当教員名	笹尾 幸夫 (南山大学教職センター) Yukio Sasao	office hour	火曜日 4 限授業後
授業の目的 この講義は、職業生活及び産業界の現状と課題を理解することにより、職業生活と職業選択に関する自主的探究力の育成を図ることを目的とする。 The purpose of this lecture is to develop the ability to independently explore professional life and career choice by understanding the current situation and issues of professional life and industry.			
到達目標 ・職業生活及び産業界の現状と課題を説明できる。 ・職業生活と職業選択に関して自主的に探究することができる。			

授業の構成

1	学校から職業への移行
2	キャリア教育と社会人基礎力
3	インターンシップの実態と意義
4	職業適性と自己理解
5	主要産業の現状と課題
6	これからの産業と職業
7	官公庁・公的部門の現状と雇用
8	会社組織の現状と課題
9	会社の各部署と仕事内容
10	日本の雇用システムの特徴
11	会社の人材活用とキャリア形成
12	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革
13	働く者のためのワーキングルール
14	仕事の基本とビジネスマナー
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末テスト (50%)、小レポート・毎回のワーキングシート (30%)、授業参加態度 (20%) を総合して評価し、C 評定以上を合格要件とする。欠席が講義時数の 3 分の 1 を超える場合、成績は「欠席」とする。30 分を超える遅刻又は早退は欠席とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 講義で指示されたテーマについて、関連文献・Web サイトなどで調べる。	
教科書・参考書 濱口桂一郎『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』(2013 年、中公新書ラクレ) 佐藤博樹・武石恵美子『職場のワーク・ライフ・バランス』(2010 年、日経文庫) 文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』(2012 年、文部科学省 HP)	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さないが、履修登録は必ずポータル・サイトから行うこと。	